



文部科学省

地(知)の拠点

2017  
平成 29 年度

**地(知)の拠点整備事業  
成果報告書**

**地域交流活動報告書**



杏林大学



学長  
大瀧 純一

杏林大学が進めている「地域交流」は、総合大学としての特長を活かして健康・福祉、地域活性化、防災などさまざまな分野に渡っております。これらの遂行に関しては、2013年に設置した杏林 CCRC 研究所や地域交流委員会をはじめとした教職員の多大な努力はもとより、それにもまして地域の皆さまの教育・研究活動へのご協力が必要であります。常日頃から、協働していただいている地域関係者、特に東京都三鷹市・八王子市・羽村市の皆さまに、心よりお礼申し上げます。

2013年度にこれまでの取り組みの成果が結実する形で文部科学省『地（知）の拠点整備事業』に採択され、「新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合地の拠点」というテーマで5年間取り組んできました。この事業は、「生きがい創出」「健康寿命延伸」「災害に備えるまちづくり」の3分野を軸に、本学のこれまでの地域交流活動を、教育・研究・社会貢献の面において全学的に発展させてきました。

東京都三鷹市に全学生、全教員が集結したことで、学部を超えた教育プログラムが本格稼働を始め、全学1年次必修科目「地域と大学」において4学部混成クラスを設置するなど全学的に地域に関して学ぶ機会を提供しています。学びの専門領域の違う学生との交わりや地域での活動は、多様なものの見方や考え方や気づきなど人として成長する良い機会であり、今後も様々な方々との交流を期待しています。

本報告書は、「地（知）の拠点整備事業」の成果報告を中心として、平成29年度における本学の地域交流活動の全体像をお示しするものとなっております。できるだけ多くの方にご覧いただき、本学の地域交流活動をご理解いただくとともに、積極的なご意見を本学にお寄せいただければ幸いです。

本学では、今後も地域との特色ある連携に力を入れて参りたいと考えております。なにとぞ本学の活動に引き続きのご支援のほど、よろしく願い申し上げます。



地域交流推進室 室長  
古本 泰之

本学は2013年度『地（知）の拠点整備事業』において「新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合地の拠点」というテーマで採択され、その活動を続けておりましたが、2017年度が事業最終年度となりました。これまでの各種事業の実施は、本事業の連携パートナーである東京都三鷹市・八王子市・羽村市の地域の皆様のご協力無しでは成立することはなく、心より感謝申し上げます。

5年間の事業を概観致しますと、全学1年次必修科目『地域と大学』の設置完了等、教育の地域志向化に一定の実績を得られたことが最大の成果かと考えます。合わせて、『生きがいづくりコーディネーター』養成講座（2018年度より『高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム』に統合）や、杏林 CCRC 研究所を軸とした公開講座の充実といった地域住民の方々との学び合いの機会が、井の頭キャンパスの設置を契機に飛躍的に増加致しました。

『地（知）の拠点整備事業』は2017年度で終了致しますが、本学の地域連携活動は引き続き積極的に展開して参ります。また、岩手県を舞台とする『地（知）の拠点大学による地方創生推進事業』に参画することで首都圏大学の地方創生への取組もさらに進めていく所存です。

本報告書をご一読いただき、事業終了後の活動の継続にさらなるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



三鷹市長  
清原 慶子

## 「地（知）の拠点」の発展に期待

平成 29 年度は「地（知）の拠点整備事業」の最終年度として、5 年間にわたる取り組みの集大成の一年でした。これまで、教育・生涯学習、健康・福祉、防災・防犯など幅広い分野で、杏林大学の皆様と 40 以上の連携事業を進めることができました。このことは「コミュニティ創生」を進める三鷹市にとって誠に有意義であり、心より感謝申し上げます。

例えば、保健学部の学生の皆様は、平成 29 年度市内 9 つの保育園において、命の大切さを伝える「いのちのおはなし会」を実施されました。この事業は園児が自分や周りの人々の命の尊さを学ぶ貴重な機会を提供するとともに、学生の皆様にとっても大学での学びを地域で実践し、直接的な反応を感じることができる貴重な場となっています。

今後も、三鷹市は杏林大学の皆様と「民学産公の協働のまちづくり」のパートナーとして、「地（知）の拠点整備事業」で培った取り組みの成果を活かして、現代の地域課題の解決を図りつつ、未来に向けた「知」の創造に向けて更なる交流を深めていくことを願っています。



羽村市長  
並木 心

## 大学の持つ知見を享受できる取組みに感謝

杏林大学と羽村市との連携事業につきましては、学長をはじめとする大学関係者の皆様にご尽力を賜わり、心より感謝申し上げます。

平成 25 年度から開始した地（知）の拠点整備事業では、市民・事業者の皆様を交えた杏林 C C R C フォーラムを実施するとともに、この期間中には新たに連携 3 市と杏林大学との共通協議がスタートするなど、本事業の枠組みを超え、実効的な取組みが推進されてきております。こうした自治体の枠を超え、多くの方々に関わり、杏林大学の教員や学生の皆様を交え様々な検討や議論を行う取組みは、大変、大きな意義を持つものであると感じております。

地（知）の拠点整備事業は、地域と大学をつなぐ 1 つの機会としてだけでなく、こうした自治体の枠を超えた取組みとして、広く大学の持つ知見などを享受できる取組みとなっており、杏林大学並びに連携自治体の皆様に深く感謝するところです。

引き続き、貴学における「地（知）の拠点」を契機とした各種事業が、継続し、更に発展されますことをご祈念申し上げます。



八王子市長  
石森 孝志

## 大学と地域がともに発展していく礎となった「地（知）の拠点」

平成 25 年度から 5 年間にわたり実施された、「地（知）の拠点整備事業」を通じて、貴学が八王子市及び三鷹市、羽村市との連携を中心に、地域貢献を柱とした事業を推進されてこられたことにあらためて敬意を表します。

この間、「新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合知の拠点」を目指して、「生きがい創出」「健康寿命延伸」「災害に備えるまちづくり」の 3 分野を軸とした様々な取り組みが推進されました。鉄道会社と協働して企画・立案した「学生が考えた駅からハイキング」の開催をはじめ、団塊の世代の健康増進に向けた「健幸教室」の実施など、貴学の教育・研究資源を活かした地域交流活動は、地域課題の解決に向けた施策の推進に大きく貢献するものとなりました。

今後も、貴学及び 3 市の深化した連携のもと、地域を志向する活動がさらに展開されることで、貴学が地域に望まれる「地（知）の拠点」として益々発展し、その成果が広く地域に還元されることを期待しております。

# 「地（知）の拠点整備事業」成果報告書 目次

ごあいさつ	3
-------	---

学 長	大瀧 純一
地域交流推進室 室長	古本 泰之
三 鷹 市 長	清原 慶子
羽 村 市 長	並木 心
八王子市長	石森 孝志

## 平成 29 年度実績報告書概要

平成 29 年度 事業の実績報告と具体的な成果	7
平成 29 年度 杏林 CCRC 拠点推進委員会開催記録	14

## 補助事業 成果報告

### 教 育

1 教 育①	17
必修授業「地域と大学」で地域を学ぶ	
2 教 育②	18
平成 29 年度「生きがいづくりコーディネーター養成講座」 及び「高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム」 の開講	

### 研 究

3 研 究①	19
杏林 CCRC 研究所セミナー報告	
4 研 究②	19
杏林 CCRC 研究所コモンズ開催報告	
5 研 究③	20
地域志向教育研究費について	

### 社会貢献活動

6 社会貢献活動 健康寿命延伸①	21
「生涯スポーツの機会提供」プログラム	
7 社会貢献活動 健康寿命延伸②	22
八王子市・三鷹市における健幸教室の開催	
8 社会貢献活動 生きがい創出①	23
極低出生体重児の育児支援サークル「ぴあんず」	
9 社会貢献活動 生きがい創出②	24
多胎育児支援活動	
10 社会貢献活動 生きがい創出③	25
大学・地域関係機関による地域共生システムの構築 ～子供の居場所作りを通して～	
11 社会貢献活動 災害に備えるまちづくり	27
BLS 指導による実践的な災害対応能力の向上	

## 全 体

12	全 体①	29
	「3市連携事業 防災に関するワークショップ」を開催	
13	全 体②	30
	第5回杏林 CCRC ラウンドテーブル、 第6回杏林 CCRC フォーラム（FDSD 研修会 同時開催）を開催	
14	全 体③	31
	連携市での様々な活動（羽村市、三鷹市、八王子市）	
15	全 体④	34
	平成29年度 FD/SD 研修会を開催	
16	全 体⑤	34
	杏林大学 地（知）の拠点整備事業 平成28年度事業にかかる第三者評価報告書	

## 出張報告 | 国内

①	地域と大学を繋ぐコーディネーターのための 研究実践セミナーへの出席	36
②	ひょうご神戸プラットフォーム 第3回 COC + シンポジウム 地域で育むイノベーション人材 ～新しい挑戦～ への出席	36
③	「地方が描く日本の未来」シンポジウム・ 分科会への出席	37
	公開講演会・公開講座	39

## COC+実務報告

COC+ 実務報告①	41
「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」について	
COC+ 実務報告②	42
COC+ 事業における杏林大学の取り組み（平成29年度）	

# 平成 29 年度実績報告書概要

## 平成 29 年度 事業の実績報告と具体的な成果

補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
<p><b>① 4 月 ウェルネス科目群の改訂</b></p> <p>昨年度に引き続き、ウェルネス科目群の根幹となる科目として、1 年生前期必修科目『地域と大学』を開講した。連携 3 自治体を中心とした地域関係者と担当教職員との協議に基づき設定された「学生に学ばせたい地域課題」をテーマとした PBL 型講義を通じて、地域志向の人材の基礎育成に努めた。今年度は羽村市職員による「羽村市の地域活性」、三鷹駅ビル『アトレヴィ三鷹』を運営している株式会社アトレ職員による「地域連携で元気な街づくり」、八王子市職員による「災害に備えて安全対策を！ ～首都直下地震による被害軽減に向けて～」を開講した。平成 28 年度より実施した 4 学部混成クラスのグループワークを継続し、本学の特徴・地域の現状・PBL 型授業を受講するための基礎的な技法等を学ぶ場としている。合わせて、大学 COC + 事業として岩手県で展開されている「ふるさといわて創造プロジェクト」への参加校としての接続を学生に意識させるため、文系学部の学生を対象として、同プロジェクトのコーディネーターである岩手大学・小野寺純治特任教授による講義の回を設けた。今年度初めての試みとして、外国語学部では「フィールドスタディⅣ」の活動の場として、岩手県釜石市をフィールドとして実習を行った。このように COC + 事業を意識しつつ COC 事業の最終年度として全学的に地域志向科目の充実を図り、外国語学部・総合政策学部を中心に「プロジェクト演習系科目」を継続的に開講した。</p>	<p>これらの結果、1 年次全学生 1,228 人（医学部 123 名、保健学部 606 名、総合政策学部 239 名、外国語学部 260 名）に対して「地域と大学との関わり」について学ぶ機会を提供し、平成 26 年度から合わせて 4,623 名が本学独自の地域志向教育の基礎を学んだ。授業に関するアンケート調査を行ったところ、95.8% が連携自治体の現状・課題を把握したと回答したとともに、87.4% が問題解決力が身についたと回答しており、今後の地域志向教育に対する意識付けおよび初年次教育における課題解決力、特にファシリテーション力の向上につながった。なお、回答者の 72.7% が継続した地域活動を希望しており、今後の本学の地域志向化拡大の契機ともなった。また 2 年間の実施を通じて、4 学部の学生・教員間での意見交換や教育成果の共有が進んだことを受け、教育内容の改善や教員の地域志向化の一助ともなった。</p> <p>本学では『地域と大学』をベースとした 2 年次以降の地域志向科目を通じて、どのような環境でも「答えのない問題」に最善解を導くことができる能力である「問題解決力」を向上させるための問題発見力・問題解決発想力・ファシリテーション力を涵養する設計で、教育の地域志向化を進めてきた。さらに 1～2 年次の学びを元としてゼミナール・研究室活動などの専門的な場における学びの地域志向化も促進され、本学の地域志向教育のモデル構築は一定の完了を見たと考えている。また、社会貢献活動を含めた課外活動の活発化によって、地域課題の「現場」を知る機会、合わせて発表会の実施を通じて成果を地域に還元し地域関係者と議論する場が増加し、教室内での学びの実質化がはかられた。</p> <p>来年度以降も COC + 事業としての活動は継続されるため、このスキームを岩手県における地方創生に適合させて行くべく、今年度実施した『地域と大学』『フィールドスタディⅣ(釜石)』をベースにさらに発展させていく。</p>
<p><b>② 地域を志向する科目の継続的实施と改善</b></p> <p>4 学部科目において「地域をテーマとする科目」区分を設定し、平成 25 年度の事業開始時より地域志向科目の増加を進めており、最終年度の目標数を上回る結果となった。総合政策学部「学際演習」や外国語学部「プロジェクト演習」等、PBL 型授業で扱うテーマを題材として引き続き地域課題に設定した。</p> <p>校内での賦活活動の結果、地域志向科目数を平成 25 年度の 55 科目から平成 29 年度には 151 科目に増加させた。科目増加に伴い、平成 25 年度の 2,566 名の履修者から、8,915 名まで履修者が大幅に増加した。また、3 自治体との協力に基づき、『地域と大学』等の授業において、延べ 16 名の連携市職員を講師や評価者として招聘し、地域志向の活性化を図った。平成 26 年度から学則改変などで順次全学部・学科の必修化に着手してきた『地域と大学』については、平成 29 年度には全学年が受講完了した。</p>	<p>COC 事業本格開始年度の 1 年生が、平成 29 年度には 4 年生となり、『地域と大学』や増加した地域志向科目と合わせて地域課題をテーマとした「問題解決力」の涵養に繋がる科目を履修することが可能なカリキュラムが完成した。</p> <p>合わせて、教育的効果を企図した研究・社会貢献活動に学生たちが積極的に参加する場をさらに増やすことで、現場での体験を通じた学びの実質化をさらに進めた。</p> <p>具体的には学生による連携市の全中学校の 2 年生に BLS 指導、連携市の消防署との救命訓練普及活動、連携 3 自治体の選挙管理委員会と連動した若年層の投票促進活動、地域のにぎわい創出イベント等の参加である。</p>

補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
<b>③ 4月～12月 地域志向教育研究経費の交付、活動（知の創造）</b>	
<p>平成29年度の地域を志向する研究は「地域志向教育研究」として7件を採択し、合計230万円を交付した。本学教員28名、本学職員及び市民等学外者8名のべ36名が参加し実施された。</p> <p>その一つである外国語学部古本泰之准教授らによる地域志向教育研究「災害に備えるまちづくり—弱者対応の視点から」では本学の「生きがいづくりコーディネータ養成講座」の修了者が研究に参加した。このような市民を市民研究協力員として研究所に受け入れ、市民との協働による研究活動を実施するための制度「市民研究協力員についての制度規則」を29年度に定めた。</p>	<p>医学部や保健学部の学生が地域の抱える「健康寿命延伸」と「災害に備える街づくり」に関わる課題に地域を志向する研究活動を介して直面すること、総合政策学部や外国語学部の学生にとっては「生きがい創出」に関わる課題に学生自身も直面することによって、それぞれの課題の解決に向けた研究の重要性を体感することが定着しつつある。</p> <p>医学部、保健学部の学生は必修科目と実験実習等がカリキュラムの大半を占め、ボランティア等に割ける自由な活動時間が制限される。それにも関わらず土日や夏季冬季の休暇中を含め多くの学生が研究補助者やボランティアとして参加したことは特筆に値する。総合政策学部、外国語学部の学生はゼミ活動の延長として様々な企画から実施まで継続した地域活性化事業に取り組んだ。</p>
<b>④ 4月～12月 平成28年度の検討に基づく学際的研究活動の実施（知の創造）</b>	
<p>地域志向教育研究費を配賦した地域志向教育研究に加えて、平成29年度に研究所員が「地域志向教育研究」費以外の学内外の競争的資金で行なう地域志向研究は8件（教員のべ14名）、研究所員以外による文部科学省、厚生労働省等の公的競争的研究費で課題に「地域」「高齢」の語を含むもの6件（6名）の合計14件、教員のべ20名である。</p> <p>平成28年4月より兼任研究員を委嘱した保健学部下島裕美准教授との連携を強化し、「死生学」に関する研究活動を実施した。特に「死の瞬間 Death and Dying」で知られるエリザベス・キューブラー＝ロの未公開インタビューの日本語教材化を企画し、日本健康アカデミーより別途研究費を獲得し日本語字幕作成を進行中である。研究活動においては類似した研究に偏ることなく、様々な視点から研究を遂行した。</p>	<p>平成25年に体系的に地域を志向する萌芽的な研究を推進する体制を確立し、さらに本事業終了後の継続を担保するため順次学外の公的助成や経費と役割の分担を明確とした連携市との協働への移行を目指してきた。</p> <p>地域志向教育研究費を配賦した研究とその他の公的助成によるものと合わせ、29年度の地域を志向する研究は当初の目標10件（参加教員23名）を大きく超え合計21件（教員のべ48名）が行われている。</p> <p>死生学に関する研究成果は来年度より保健学部下島裕美准教授他の講義に試用する予定である。</p> <p>「三鷹市老人クラブにおけるロコモティブシンドローム対策指導者育成—ロコトレ手帳の活用促進と改訂」や「地域・大学・リハビリ専門職の連携による介護予防事業の効果検討」等においては連携市との協働研究活動を展開している。これには病院職員や学生が積極的にボランティアとして参加している。特に、医療系学生が学習の成果をもって現実の高齢化課題に接する絶好の機会となっている。</p>
<b>⑤ 6月～11月 「杏林コモンズ」の八王子いちよう塾・三鷹ネットワーク大学での生涯学習連続講座等の実施（知の普及）</b>	
<p>平成29年、八王子学園都市大学及び三鷹ネットワーク大学で研究所の連続講座「日常生活にちょっと役立つポジティブ心理学」「はじめての死生学」を各2回、合計4講座（合計15講義）を実施し、26名の市民が登録をし、受講した。</p> <p>平成29年度の杏林大学公開講演会や連続講座は、5月13日の杏林医学会・三鷹ネットワーク大学との共催フォーラム「うつについて改めて知ってみませんか？」講演会から始まり、1月27日本学三鷹キャンパスでの「高齢者の難聴と耳鳴り」まで合計24回28講演を企画開催した。このうち19回が医療系の話題を取上げたCOC事業の健康寿命延伸にかかわるものである。24回の講演会では重複を含め医学部教員18名、保健学部3名、総合政策学部2名、外国語学部3名、付属病院職員1名、学外者1名の先生方にご協力いただき、合計28名が講演等を担当した。開催場所はCOC事業で連携する三鷹ネットワーク大で6回と本学三鷹キャンパス6回、井の頭キャンパス6回、八王子市3回、羽村市3回である。</p> <p>これに加えて地域志向教育研究関連の講演会、その他の本学が関与した公開講演会等は平成25年度は58講座、38名の教員が参与していたが、平成29年度は199講座が開講され、145名の教員が講演・講座等を担当し、知の普及に努めた。</p>	<p>今年度の杏林大学公開講演会、連続講座は、合計24回28講演が実施され、多くの市民が聴講に訪れた。公開講演会を受講した市民の数は平成27年度の19回1245名、平成28年度の26回2073名から大幅に増加し、平成29年度には3,088名が受講した。</p> <p>COC事業の遂行に伴い、4学部（医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部）の教員に対し、地域に対する知の普及の協力依頼を重ねた努力の結果が数字に表れたと言える。受講する市民からは公開講演会の枠だけでなく、自治会やイベント時の講演会の依頼も増えており、相当数の教職員が要望に応じた講演会や生涯学習の一助を担っている。公開講演会だけでなく、知の普及という観点から見れば、高齢者に無理のないスポーツとしてポッチャ体験会を開催したり、理学療法士によるセラバンドを用いた「健幸教室」を定期的に開催するなど、本学の特徴を活かした地域貢献活動が展開されている。</p>

補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
<b>⑥ 4月～3月 日本版 CCRC を含めた地方創生への協力（知の実践）</b>	
<p>平成 29 年度の地域志向教育研究として「持続可能な少子超高齢社会像の構築：日本版 CCRC に関する考察」を提案し、平成 30 年 1 月 13 日に公開シンポジウム「都市高齢者の今後：主体的な選択を行うために」を企画開催した。本シンポジウムでは岩手県八幡平市で日本版 CCRC である「オークフィールド八幡平」を経営する山下直基氏を招き「老後の衣食住」と題し「どこでどのように老後を過ごすのか」「日本版 CCRC という概念と課題」「都市居住者の地方移住という選択肢」について講演を依頼した。その概要は紀要に掲載した。</p> <p>総合政策学部三浦秀之准教授を兼任研究員とし、東日本大震災復興に学ぶことを踏まえた「災害に備えるまちづくり」に関する研究教育活動を開始した。</p>	<p>平成 30 年 1 月 13 日（土）に三鷹ネットワーク大学にて開催した日本版 CCRC に関する公開シンポジウムにおいて、日本版 CCRC を含めた地方創生に基づく今後の協働に向けた討議が行なわれ、学生を含めた協力の可能性を具体的に検討することができた。</p> <p>また、本学はポートランド州立大学と MOU を締結しており、研究機構であるパブリックサービス研究・実践センター（The Center for Public Service）において Initiative for Community and Disaster Resilience (ICDR) という災害とコミュニティに特化した研究所が設置されたことから、平成 29 年度より、東日本大震災の教訓を学ぶための授業及び視察プログラムを実施することとした。ポートランド州立大学生 10 名、本学総合政策学部生 5 名が、6 月 23 日から 2 泊 3 日で石巻市に出向き、行政や地域が、震災時に初動にどのように対応したのかをはじめ、被災状況および復興状況を行政および地域の方々から直接お話を伺いながら、今後の震災対応を考察した。この「災害に備えるまちづくり」に関する取組は、総合政策学部三浦准教授が東日本大震災後から積極的に行っている活動であり、ゼミ学生を引率し、教育活動を継続している。この継続的な被災地支援活動を通じて、学生の地域志向人材を育成する一助となっている。</p>
<b>⑦ 4月～3月 「杏林 CCRC ラウンドテーブル」での議論を基に今後の研究活動体制と内容を検討し立案（知の実践）</b>	
<p>平成 27 年度に実施した杏林 CCRC ラウンドテーブルにおいて連携市との事業だけでなく、本学と 3 市が共通のテーマを持って協働することが提案された。これを受けて、昨年度から 3 市と本学で定期的な打ち合わせの機会を設け、自治体それぞれの状況や課題が異なる中で 3 市が取り組めるものとして「防災」に焦点を絞った。「防災」を課題として連携し、協議を続けてきた平成 29 年度では、COC 事業の最終年度を締めくくるにあたり、本学の教員を中心としたグループワークの機会を持ち、地域住民を交えて具体的な防災に備えた対策について協議を重ねた。共通の課題が具体的に見えてきたことから、今後は各自自治体特有の課題や状況に合わせた対策を行う中で、知の実践を行うために本学の持つ医学・医療系の知識と、地域コミュニティ・多言語化等に向けた知を惜しみなく提供することで今後も防災に関わる研究活動を検討していく。今後、各自自治体と取り組む事業については 3 市が一堂に会する地域交流報告会にて事例報告を行い、今後も連携体制を維持し、強化していく。</p> <p>加えて、杏林 CCRC ラウンドテーブル等での要望に基づき、COC 事業終了後も応じる体制を構築すべく、平成 28 年度にポスト COC 検討委員会を設置し、学長を交えて検討を繰り返している。今後の研究活動と研究成果の地域への還元について、研究と実践活動の点検と方向性を確定し、具体案を策定している。</p>	<p>COC 事業終了後も本学が地（知）の拠点として活動を継続する体制を明確にするため、学長をリーダーとした検討委員会を 28 年度中に設置した。「杏林 CCRC ラウンドテーブル」での連携自治体等との議論等を踏まえて将来構想を策定すること、また本事業で育成した生きがいコーディネーターとの協働体制を確立すること、杏林 CCRC 研究所を維持する体制を明確にし、継続的な活動を推進していく。また、杏林 CCRC 研究所が引き続き「健康寿命延伸」「生きがい創出」「災害に備えるまちづくり」に関する研究を、焦点を絞りながら実施するにあたり、大学・病院職員及び学生のボランティア参加を積極的に求める。</p> <p>今後も持続的に推進する様々な研究活動や、連携市と協働で進める防災研究の成果は、地域交流報告会での発表、研究論文の発表、公開講演会の場を用いて知識の普及を行っていく。</p> <p>「災害に備えるまちづくり」「生きがい創出」の観点からも、全学部（医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部）1 年生が必修科目として学ぶ「地域と大学」にて防災やにぎわい創出をテーマとしたグループワークの機会を今後も授業計画に取り込んでいく。</p>



補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
<b>⑧ 1月 杏林 CCRC 研究所紀要発刊 (知の普及)</b>	
<p>平成 29 年の地域志向研究の成果を広く公開する 3 編の論文 (うち 1 編は地域志向教育研究論文)、公開シンポジウム「都市高齢者の今後: 主体的選択を行なうために」報告を含めその他の活動に関する 7 件の報告、5 件の地域志向教育研究報告からなる「平成 29 年度杏林大学杏林 CCRC 研究所紀要」(130 頁)を平成 30 年 3 月に発行し、連携三自治体とその関係機関、教育機関、医療機関を中心に 157 箇所へ郵送配布した。また平成 30 年 4 月にはホームページ上にも掲載した。</p>	<p>平成 29 年度と平成 25 年からの研究所における CCRC 研究の成果と活動について、総括となるよう論文にまとめ研究所紀要に文書化して公表した。具体的には紀要に所収した論文「都市型超高齢社会における杏林 CCRC の役割と課題」において本学の過去 5 年間の活動を総括した。</p> <p>紀要に所収した地域志向教育研究の報告では、学生の研究補助者・ボランティアとして参加に関し多くの記載がある。</p> <p>また平成 29 年度の地域志向研究の成果を論文として、研究所の諸活動の報告等を紀要として文書化して公表することで創造した知の普及と蓄積を図った。</p>
<b>⑨ 「生きがい創出」「健康寿命延伸」「災害に備えるまちづくり」に係るプロジェクトの実施</b>	
<p>「生きがい創出」を目的とした「子育て支援プログラム」は 3 つのプログラムに細分化されて実施されている。①多胎児を妊娠中の家族への情報提供と妊娠出産に関する不安を減らし、育児の準備を整えることを目的とする多胎育児準備教室の開催、多胎児の親の会「ツイズマーケット」の開催を行った。本活動において市民は延べ保護者 212 名、子ども 96 名、学生は 59 名の参加があった。②極低出生体重児の育児支援サークル「ぴあんず」は 4 回実施し、参加者は各回に 6 ~ 12 家族、学生 6 ~ 18 名の参加があった。活動の実際は、フリートークや専門家を招いての学習活動、小児科医・看護師による医療相談などを行った。③保護者が幼児に性教育を行うための支援である「いのちのおはなし会」は、幼児とその保護者を対象に、子どもたちがいのちはかけがえのない大切なものであること、自分の体を知り、自分で自分を守ることができる、の 2 点を目的として実施した。本プログラムは 12 回実施し、保護者は延べ 35 名、子ども 245 名の参加があった。その他の活動では、発達障害児 12 名とその保護者 10 名を対象に余暇活動支援を行った。</p> <p>「健康寿命延伸」を目的とした「生涯スポーツ提供プログラム」では、ロコモティブシンドローム予防を意識づけるため体力測定、ロコモ度チェック、相談会などを実施した。また個別に運動開始と継続への支援を行い、個人に合わせた適切な運動の提案を行った。その他ポールウォーキングやノルディックウォーキング体験会を行い、ウォーキングの多様性を住民に提案した。歩き方教室ではウォーキングの紹介・体験にとどまらず、歩く際の姿勢など意識すべきポイントや靴の選び方等を交えてレクチャーを行った。また、羽村市健康フェアや健康の日にブースを設置し、学生の協力を得ながら体力測定と健康相談を行い、市民との交流を図ると共に運動と健康に関する情報提供を行った。</p> <p>「災害に備えるまちづくり」を目的とした「救命講習(AED 講習)」は、学生を指導者とした救命講習を実施した。指導対象は、羽村市の中学生約 505 名と三鷹市の一般市民 200 名であった。また、三鷹市の市民約 800 名が参加した総合防災訓練において学生 22 名が BLS 指導を実施した。さらに「三鷹市民駅伝大会」「全関東八王子夢街道駅伝競走大会」において、AED 担当及び救護所担当として学生 23 名と教員 3 名が参加した。</p>	<p>本補助事業による活動は、学生の主体的な、かつ地域への積極的な参加を伴うものである。「子育て支援プログラム」において学生は、家族の不安に対する精神的な支援の必要性を学び、現代の子育ての現状に関する理解促進、職業意識の明確化、自己肯定感の育成などの教育効果があった。「いのちのおはなし会」では学生は親子で参加することの意味、つまり、今後子どもの質問に親が向き合うことに役立つことや、親と子がお互いの大切さに気づく活動であること、子ども達も保護者も学生も三者が互いに学べる貴重な活動であるということを実感していた。本活動は学生が自分自身の性や命に向き合う機会にもなっており、さらに活動に参加できる喜びやこの活動を続けてきた先輩への感謝の気持ちにもつながっていたことから、教育的効果の高い活動であった。子育て支援プログラムでは、活動の中で多様な発達段階にある子ども、障がいのある人などさまざまな背景を持つ人と触れ合う機会を持ち、学生の他者を思いやる心を育成し、積極的に社会を改善していく意欲や能力を育成する機会となった。</p> <p>「生涯スポーツの機会提供」プログラムにおいては、運動が始められない・継続できない理由を明確にし、対象者それぞれに応じた適切な提案ができる有意義な活動になった。さらに参加者との対話を通じ、個々人の状態に応じた適切な運動となるように努めたことにより、運動に対する意識を強化できた。学生は体力・運動評価の補助、ウォーキング体験会での個別指導補助や負荷量計算時の補助を担い、学生にとっては、地域住民と触れ合うことで、医療従事者に必須なコミュニケーションスキルを向上させる絶好の場となった。</p> <p>活動により複数の地域住民が一緒になってスポーツを楽しむきっかけとなり、地域住民間の交流が活性化だけでなく、若者と高齢者の社会的接触の機会となり世代間交流を促進し、学生にとっては高齢者の理解、高齢者にとっては精神的・身体的に活性化することにつながった。</p> <p>「災害に備えるまちづくり」の BLS 指導活動は、中学生の早い時期から BLS 教育が行われることにより、病院外で心肺停止に陥った人の救命活動に活躍できる学生を育てる教育として期待されるものである。指導に携わった学生は授業で習得した技能を実践的に活用することで、学習の効果を確認でき、学生自身の応用性や創造性が身につけられた。学生主体となって防災教育や BLS 指導をすることは、将来救急救命士として消防職に就く学生たちの大きな糧になると考えられる。既存の取り組みを着実に進めるとともに、実社会から吸い上げられた地域課題に迅速に対応し、本学の新たな社会貢献活動を企画・実施することを通じて、社会貢献活動を学生・教員の幅広い参加につながる全学的な動きに結びつけることができた。</p>

補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
<b>⑩公開講演会の内容を本事業の趣旨に基づいた形で拡充し、連携自治体において実施</b>	
<p>本学広報・企画調査室、杏林 CCRC 研究所、地域交流推進室、地域交流課との共同で、連携自治体である三鷹市で 18 回、羽村市で 3 回、八王子市で 3 回、合計 24 回、本補助事業のテーマである「生きがい創出」「健康寿命延伸」「災害に備えるまちづくり」に関する公開講演会を行った。公開講演会には延べ 3,088 名の参加があった（昨年比 1,383 名増）。27 年度から引き続いて開催している連続講座は、10 月に週 1 回 3 週に渡り連続講座を企画・開催し、三鷹の住民を中心に 15 名から受講登録があり受講した。また、八王子市の学園都市センターにおいて 6 月に週 1 回 4 週に渡り連続講座を企画・開催し、八王子市の住民を中心に受講登録者 11 名が受講した。</p>	<p>事業開始時より行ってきた杏林 CCRC ラウンドテーブル・杏林 コモンズの間においての自治体・団体・地域住民とのやりとりや取り組み情報の共有が、新たな公開講演会を生み出す契機となった。</p> <p>特に羽村市においては、定期的に地域関係者からニーズを吸い上げてテーマ設定を行う流れが定着されてきた。平成 29 年度は、24 の公開講演会のうち、羽村市を会場とした公開講演会は当初 3 件を予定していたが、市からの要望に応え、追加で 4 件の公開講座と、簿記連続講座（7 回）を実施した。4 件の公開講座のうちの 2 件は、本学学生が羽村市の市民の会と市職員と協議を重ねて企画した公開講演会であり、大好評であった。（12 月 2 日開催：日本が誇る世界遺産～意外と知らない日本の魅力再発見講座、12 月 9 日開催：競技かるたでつなぐ地域の輪～老若男女で学ぶ競技かるた講座）学生が地域と高齢者、自治体に溶け込み、苦心した講演会企画は、学生達自身にとってもやりがいと成長を感じ、自信にも繋がったとの声が多かった。</p> <p>井の頭キャンパス設置後は、公開講演会会場を本学の 2 キャンパスを中心としながら、駅からのアクセスが容易である三鷹ネットワーク大学にも協力を仰ぎ開講した。講演内容は杏林大学の知的資源を積極的に活用しながら、毎回行う受講者のアンケート調査に基づいたニーズに沿ったものを提供している。そのため日常生活の健康やグローバリゼーション、ライフスタイルなど、市民の要望に叶った有益な知の提供を行うことができた。</p>
<b>⑪「生きがいづくりコーディネーター」養成講座の実施継続方法を検討</b>	
<p>保健学部・総合政策学部・外国語学部で井の頭キャンパスにて開講している科目のうち、本補助事業のテーマである「生きがい創出」「健康寿命延伸」「災害に備えるまちづくり」を軸に、それに関連した講義・演習科目を組み合わせて、「生きがいづくりコーディネーター養成講座」を開講した。この講座は市民・学生を対象とした教育プログラムであり、昨年に引き続き、本補助事業連携自治体の在住・在勤者に対しては履修料を無料とし、市民の積極的な受講を促した。その結果、連携自治体より 15 名の受講者を得て、平成 30 年 3 月 10 日に開催した修了式において 10 名に修了書を授与した。本事業終了後も地域住民へ知の資源を提供するため、ブラッシュアップした講座に展開・継続していく体制を整えた。</p>	<p>本学の授業を地域に開放し地域住民と本学学生が学び合う場を設定したことで、地域のニーズに応じた人材を育成する「学び直しの場」を設けることができたとともに、地域志向教育を受ける学生たちにとっては地域の生きた情報を受講者から得ることができる機会となった。その有機的な結びつきを通じて、より効果的に地域の課題に対処するとともに、教育を介して地域の活性化を図っていくことが本講座の狙いである。修了者の活用については、今後も継続的に連携自治体と協議していくとともに、今後本学の教育（授業での講演など）・社会貢献活動（健康寿命延伸の取組）に関わっていただくことになっている。</p> <p>またこの講座が定着するに伴い、受講生間の交流も盛んになってきた。その中から、平成 29 年度には三鷹市内における他世代間交流の場としての「おむすびハウス」立ち上げ、本学職員・学生・株式会社アトレとの連携に基づいた地域イベント「みたからさんぽ」企画・実施など、受講生主体の地域活動が生まれた。このことは、本学や連携自治体が計画した動きのみならず自律的に受講生の活動が地域内で展開されていることを意味し、本事業における大きな成果と言える。</p>

補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
<p><b>⑫ 2月：第6回杏林 CCRC フォーラムを開催</b></p> <p>平成30年2月10日(土)、本学井の頭キャンパスを会場として、本事業の連携自治体の関係者、協力団体の関係者、本学教職員、学生を対象として、第6回杏林 CCRC フォーラムを開催した。連携自治体の首長からこれまでの本事業の成果講評をいただくとともに、文部科学省高等教育局職員を招聘しごあいさつをいただいた。平成29年度は本事業の最終年度にあたることから、年度内の活動報告にとどまらず、平成25年度からの諸活動を振り返る形で学生の活動報告を中心とした内容で構成した。学生発表に続き、直接その学生の教育にあたった各教員から5か年の活動を通して、学生に対する教育内容と効果、具体的にどのように成長と遂げてきたのかを、今後の活動の予定を交えながら報告した。終わりに本学学長より、COC事業は終了するが今後も連携自治体と共に更に地域に根差した活動を続けていくことを述べ、盛況の内に終了した。参加者は連携市関係者・地元関係者・本学関係者を含めた142名が参加した。外部の方には本学の様々な挑戦や取り組みを紹介するよい契機となり、本学教職員にとっては地域から求められている課題やニーズを知るとともに、地域貢献を再認識できる有意義なフォーラムとなった。</p>	<p>連携自治体の関係者を招き、本学での様々な地域活動を報告するとともに、学内教職員と学生には地域活動への誘導と、本学の地域交流活動の紹介を目的として、第6回杏林 CCRC フォーラムを開催した。学生は自身の地域活動発表と、担当教員からの教育の狙いと効果の言葉を通して、客観的に自身の成長とやりがいを感じた。また連携自治体関係者との議論や質疑応答を重ねたフォーラムを開催することにより、学内外へ本事業における5年間の取組成果の公表・普及が達成された。</p> <p>本学のキャンパス移転後、地域の方からの声を多く聞く中で、「学生のパワー」「地域と学生の連携活動」「更なる知の普及」への期待が大きいことに着目し、学生の発表を中心とした杏林 CCRC フォーラムを企画した。終了後のアンケート結果から、学内外ともに非常に好評を得たフォーラムとなった。</p> <p>また、外部からの来訪者にとっての本学との地域連携活動をスタートさせる契機となったと考えられ、終了後にも積極的な議論がなされた。今後も積極的に学生と地域をつなぐ活動を推進していく。</p>
<p><b>⑬ 7月：事業年次報告書を刊行</b></p> <p>平成28年度に実施した本事業に基づく活動と本学の地域交流活動全般における取組をまとめた「平成28年度地域交流活動報告書・地(知)の拠点整備事業成果報告書」を発行し、連携自治体をはじめ、大学関係や各種団体等へ郵送(約350通)するなど活動状況を公開した。合わせて、平成25年度からの本事業の取り組みについて総括的にとりまとめた「事業最終報告書(仮称)」の作成に関する方向性について、ポストCOC検討会で検討を重ね、第9回杏林 CCRC 拠点推進委員会(平成30年1月29日開催)において、検討・報告を行った。</p>	<p>本事業の事業計画や成果の網羅的な記録を発行したことは、本事業で取り組んできた活動の連携地域内外への公表・評価・成果の普及に寄与した。また、本事業のコンセプトである杏林 CCRC 構想を円滑に推進するためのPDCAサイクルのツールとして機能している。</p> <p>さらに本学のさまざまな連携協議の場において資料として用いていることから、今後同様の問題を抱える自治体や大学等に本事業の成果を波及させることも期待される。既に連携自治体などから複数の取組について他の自治体で展開している活動を自地域で展開できないかとの依頼を受けて検討を行っている段階にある。</p>
<p><b>⑭ 杏林 CCRC 拠点推進委員会による内部評価の実施</b></p> <p>平成29年度は全11回の委員会を開催(平成29年4月17日、5月15日、6月19日、7月24日、9月11日、10月16日、11月20日、12月18日、平成30年1月29日、2月26日、3月19日)し、予算執行や人事・活動計画などについての審議を行い、活動報告を確認することで管理を行った。</p> <p>杏林 CCRC 拠点推進委員会は、PDCAサイクルによる本事業の進捗確認、達成状況の点検や評価を行うとともに、改善に向けた協議を重ねた。その検討根拠として、文部科学省からの指示設問に独自設問を加えた平成28年度本補助事業の取組に関するアンケートを作成し、平成29年3月～4月にかけて本学の全学生・全教職員(看護職、技術職を除く)・連携自治体の責任者に対して実施した。学生の回収率は57.0%、教職員の回収率は67.9%、自治体の回収率は100%であった。</p>	<p>杏林 CCRC 拠点推進委員会は平成29年度中に11回開催し、本事業のコンセプトである杏林 CCRC 構想を円滑に推進するためのPDCAサイクルのみならず、従来の地域交流活動を総括連携するシステム、杏林 CCRC 構想の推進に関するさまざまな知見が報告される場として機能した。合わせて、井の頭キャンパス設置に伴う学部の壁を越えた取組の可能性や、本事業終了後の継続性(「ポストCOC計画」)について活発に議論を行うことができた。</p> <p>また、平成28年度終了時に行ったCOCアンケート調査結果では、COC事業に対する一定の認知度(学生:66%教員:84.4%職員:80.5%)が確認できたとともに、今後の継続に向けた教職員・学生・自治体の期待感と改善提案が提示されたため、本事業の継続に向けた方向性検討の参考とした。</p> <p>なお、本事業終了後も杏林 CCRC 拠点推進委員会は地域志向活動の全学的PDCA機関として継続開催していくことが決定しており、本事業の継続性の担保となっている。</p>

補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
<p><b>⑮外部評価による点検・改善の実施</b></p> <p>平成 30 年 2 月 10 日（土）に開催した第 5 回杏林 CCRC ラウンドテーブルにおいて、連携 3 市の首長（三鷹市長、羽村市長、八王子市長代理・市民活動推進部長）と本事業責任者（学長）、事業担当者（地域交流推進室長）、副学長、杏林 CCRC 研究所長により、事業の進捗と成果、達成状況を報告するとともに、本事業についての評価を受けた。また、平成 29 年 10 月 23 日には、本学が独自に設けた第三者評価委員会を開催し、平成 28 年度の事業成果について点検・評価を受審した。評価内容については報告書にまとめ、平成 29 年 12 月 18 日にウェブサイト公表した。</p>	<p>杏林 CCRC ラウンドテーブルを通じて連携自治体から本学の活動に対するフィードバックを受けることにより、地域社会のニーズに応えた教育・研究・社会貢献活動を適切に展開するための基盤構築の契機となった。また、その成果は各連携自治体および関係団体に還元されるとともに、杏林 CCRC ラウンドテーブルを通して他の連携自治体とも共有される。このような情報交換・共有の場合は、それぞれの市が抱える地域課題を立場が異なる観点から発展的に議論を尽くす一つのきっかけとなり、性格を異にする連携自治体が、本学の知的資源を活用しながら単独では解決が困難な諸問題に共同で取り組むきっかけを提供する場となった。その中から生まれた取組として、平成 28 年度より連携 3 自治体と継続的に「災害に備えるまちづくり」における「連携 3 自治体×大学連携」について協議を重ねている。平成 29 年度には 3 市と本学教員による防災啓発ゲームの体験イベントを開催した。イベント後に平成 30 年度以降の取組内容の検討を行い、事業形態は検討を要するものの取組としては本事業終了後も継続していくことを確認した。</p> <p>第三者評価委員会では、本学の迅速な取組に対する評価をいただくとともに、大学 COC + 事業を含めた本事業終了後の継続に向けた自治体との連携の在り方、成果の「わかりやすい」可視化、生きがいづくりコーディネーターの地域での活用策等、多岐に亘る提言をいただき、本事業終了後の活動継続方針を策定する上で大きな参考となった。</p>
<p><b>⑯活動成果の社会への公開</b></p> <p>平成 29 年 7 月に、本事業を含めた本学の地域交流活動全般における平成 28 年度の取組をまとめた「平成 28 年度 地域交流活動報告書・地（知）の拠点整備事業成果報告書」を発行し、大学等関係団体等へ約 350 部を郵送するとともに、学内での普及活動に用いた。この報告書は平成 29 年 7 月 18 日にウェブサイト公表した。また、本学の地域活動を学内外へ周知・広報するため「地域交流活動かわら版」を平成 29 年度には 13 回（月 1 回程度）発行し、学生や教職員が取り組んだ地域活動を取り上げ、連携各市に送付するとともに公共施設等にも設置し、活動成果の公開を促進した。また、例年関係者で実施している「杏林 CCRC フォーラム」の第 5 回は一部外部にも公開し、本事業における本学の取組についての周知の場とした。</p> <p>なお、本事業に伴う取組については本学公式ウェブサイト内に特設ページを設け、そこで随時「トピックス」として紹介することで、即時性の高い情報提供を行っている。</p>	<p>本事業における取り組み内容とその成果をタイムリーに学内外に周知する体制を構築したことで、その成果のより広範な普及が達成されたとともに、取組評価の精度向上や他地域への成果の波及も期待される。また、全学的な「地域志向化」に対する本学内での認知度をさらに向上させる取組を通じて、学内における本事業や「地域のための大学」への認知度において高い水準を達成した。</p> <p>「地域交流活動かわら版」では、学生の活動を前面に押し出して掲載することで、学生の達成感を感じさせ、更なる地域活動に結びつくよう、地域交流推進室、地域交流課教職員一同尽力している。</p>
<p><b>⑰事業の継続に関する「杏林 CCRC 運用計画」の策定</b></p> <p>平成 28 年 10 月 17 日開催の第 6 回杏林 CCRC 拠点推進委員会において COC 事業終了後の本事業の継続的取組の内容を検討する小委員会が設置されたことを受け、平成 29 年 3 月 27 日に第 1 回「ポスト COC 検討会」（座長：本学学長）を開催した。その後、第 2 回（平成 29 年 8 月 31 日）、第 3 回（平成 29 年 10 月 18 日）、第 4 回（平成 29 年 12 月 20 日）を開催し、COC 事業の継続的取組について、全体方針から個別事業の継続性に至るまで協議を重ねた。その上で、第 7 回杏林 CCRC 拠点推進委員会（平成 29 年 11 月 20 日）、第 9 回杏林 CCRC 拠点推進委員会（平成 30 年 1 月 29 日）において、平成 30 年度以降の取り組みについてのポスト COC の方針に関する最終案を作成、平成 30 年 3 月 19 日開催の全学運営組織である「運営審議会」で報告を行い、承認を得た。</p>	<p>「ポスト COC 検討会」の場において本事業の成果について包括的に再検討することを通じて、杏林 CCRC 構想に向けた取組の必要性を改めて確認した。その上で、本事業に基づく取組を「期間限定」で展開されたものとするのではなく、「地域のための大学」を定着させる具体的手法として捉え、今後の本学の教育・研究・社会貢献の根幹に地域志向を根付かせていくための継続方針と体制を決定した。運営審議会でも同様の説明を行い、今後の本事業の継続について全学的承認を受け活動継続のための担保は得られたことから、平成 30 年度以降も COC + 事業に含める形でより発展した活動を継続して行っていく。学生教育についても地域貢献を中心に積極的な参加を促し、「地域のための大学」として息の長い地域活動を推進していく。</p>

# 平成 29 年度 杏林 CCRC 拠点推進委員会 開催記録

回	日程	場 所	議 題
第 1 回	4 月 17 日 (月)	三鷹キャンパス 本部棟 6 階 会議室	<p>〈報 告〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. H29 年度 COC 工程表について</li> <li>2. H29 年度予算について</li> <li>3. H28 年度実績報告書の提出について (4/7、4/27)</li> <li>4. 杏林 CCRC 研究所紀要発行・Web 公開について</li> <li>5. 平成 29 年度公開講演会について</li> <li>6. COC アンケート、フォローアップについて (5/26 締切)</li> <li>7. 平成 29 年度生きがいづくりコーディネーター養成講座開講式について (4/5)</li> <li>8. 会計検査院の実地検査について (3/15～17)</li> <li>9. その他</li> </ol> <p>〈協 議〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. H29 年度地域志向教育研究費の選考について</li> <li>2. H29 年度地域活動助成費の選考について</li> </ol>
第 2 回	5 月 15 日 (月)		<p>〈報 告〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公開講演会について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5/13 (土) うつについて改めて知ってみませんか? (杏林医学会主催) 114 名</li> </ul> </li> <li>2. H27 年度補助金額決定について</li> <li>3. H29 年度生きがいづくりコーディネーター養成講座 (在校生) 説明会実施について</li> <li>4. 「地域と大学」実施状況について</li> <li>5. 地域志向教育研究費の継続審査について</li> <li>6. ポスト COC 検討会議について</li> <li>7. その他</li> </ol> <p>〈協 議〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 杏林 CCRC 研究所研究員制度規則について</li> <li>2. フォローアップの提出について</li> </ol>
第 3 回	6 月 19 日 (月)		<p>〈報 告〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公開講演会について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5/20 (土) 腸内フローラと健康 (医) 神谷先生 41 名</li> <li>・ 5/27 (土) 口腔ケアと手術-あなたの知らない口の中のお話し (医) 池田先生 73 名</li> <li>・ 6/ 3 (土) 女性のトイレトラブル-自分でできる対策と予防 (病) 金城真実医員 83 名</li> </ul> </li> <li>2. 予算状況について</li> <li>3. フォローアップの提出について</li> <li>4. COC +ふるさとといわて創造協議会作業部会、外部評価委員会の参加報告について</li> </ol> <p>〈協 議〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 杏林 CCRC 研究所市民研究協力員制度規則について</li> <li>2. 市民研究協力員の任命について</li> <li>3. ポートランド州立大学パブリックサービス研究・実践センター(CPS)との覚書締結について</li> <li>4. H29 年度人事関係について</li> <li>5. FDSD 研修会 (AP 主催) の COC 共催について</li> <li>6. 杏林 CCRC フォーラムの会場について (H30/2/10 予定)</li> </ol>
第 4 回	7 月 24 日 (月)		<p>〈報 告〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公開講演会について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7/ 8 (土) 自分らしく生きるヒント-高齢期のアドバンスケアプランニング (保) 角田先生 197 名</li> <li>・ 7/ 8 (土) 地域で支える認知症 (医) 長谷川先生 137 名</li> <li>・ 7/22 (土) ことばの能力 (外) 金田一先生 346 名</li> </ul> </li> </ol> <p>八王子学園都市センター主催 いちよう塾連続講座報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6/9.16.23.30 ちょっと役立つポジティブ心理学 (保) 下島先生、蒲生所長 13 名</li> <li>・ 6/9.16.23.30 はじめての死生学 (保) 下島先生 19 名</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. 予算状況について</li> <li>3. COC +中間評価について</li> <li>4. COC +インターンシッププログラム提供について</li> <li>5. COC +岩手県内事業所見学バスツアーについて</li> <li>6. 岩手大学教員による「地域と大学」の講師招聘について (7/21)</li> <li>7. 生きがいづくりコーディネーター受講生との意見交換会について</li> <li>8. COC +ふるさとといわて創造協議会会議参加について</li> <li>9. 成果報告書について</li> </ol>

回	日程	場 所	議 題
第5回	9月11日(月)	三鷹キャンパス 本部棟6階 会議室	<p>〈報 告〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公開講演会について <ul style="list-style-type: none"> <li>• 9/2(土) 新しいキズの治し方 -キズってどうやって治るの? (医) 大浦先生 192名</li> <li>• 9/9(土) 親子で目指す「TOKYO2020 ボランティア」最初の一步 (外) 野口先生 32名</li> </ul> </li> <li>2. 予算状況について</li> <li>3. 全学アンケート結果について</li> <li>4. 生きがいづくりコーディネーター受講生との意見交換会について</li> <li>5. 第三者評価委員会について → 9/5(火) 延期</li> <li>6. H29年度杏林 CCRC 研究所紀要発行について</li> <li>7. フォローアップ数値について</li> <li>8. H28年度地域志向教育研究費事後評価について</li> <li>9. H28年度地域活動助成費事後評価について</li> <li>10. COC + 出張報告(キボウスタ第2期発表会、教育プログラム開発部会)について</li> <li>11. ポストCOCについて</li> </ol> <p>〈協 議〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. H29年度予算の使途について</li> <li>2. 杏林 CCRC フォーラムについて</li> <li>3. 「ふるさと発見! 大交流会 in Iwate 2017」ブース出展について</li> </ol>
第6回	10月16日(月)		<p>〈報 告〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公開講演会について <ul style="list-style-type: none"> <li>• 9/30(土) どうなるトランプ政権と日米関係 (総) 松井先生 107名</li> <li>• 10/14(土) 訪日外国人から見た“隠れた日本の魅力” (外) 安江先生 92名</li> <li>• 10/14(土) 知っておきたい“頭痛の基本” (医) 宮崎先生 111名</li> <li>• 10/3(火) ポッチャ体験会 株式会社 AZUMA (保) 一場先生 7名</li> </ul> </li> <li>連続講座(三鷹ネットワーク大学) <ul style="list-style-type: none"> <li>初めての死生学 (CCRC 研究所) 蒲生先生、(保) 下島先生 18名</li> <li>ポジティブ心理学 (保) 下島先生、CCRC 研究所) 蒲生先生 14名</li> </ul> </li> <li>2. 予算状況について</li> <li>3. 第三者評価委員会について(10/23(月) 10時～)</li> <li>4. COC + 葛巻町及び紫波町との協定締結について</li> <li>5. COC + 出張報告について</li> <li>6. ポートランド州立大学パブリックサービス研究・実践センター(CPS)とのMOUについて</li> <li>7. 生きがいづくりコーディネーター養成講座修了生による「おむすびハウス」の開所について</li> </ol> <p>〈協 議〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. H29 生きがいづくりコーディネーター養成講座選択科目の一部変更について</li> <li>2. H29年度 COC+ 予算の使途について</li> <li>3. 来年度の成果報告書について</li> </ol>
第7回	11月20日(月)		<p>〈報 告〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公開講演会 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 10/21(土) 脱毛症と再生医療 -適応となる疾患から幹細胞・iPS 細胞を用いた毛包再生まで- (医) 大山先生 59名</li> <li>• 10/28(土) 心臓病とどうつきあうか (医) 吉野先生 101名</li> <li>• 11/2(土) 認知症を理解するために (医) 長谷川先生 66名</li> <li>• 11/18(土) 日常生活にちょっと役立つポジティブ心理学 (保) 下島先生 約110名</li> <li>• 11/18(土) 「増えている炎症性腸疾患 (IBD) について知ろう! 小児 IBD の問題、腸内細菌のトピックス、そして新しい治療薬」(杏林医学会主催) 109名</li> </ul> </li> <li>ポッチャ体験会 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 11/14(火) 株式会社 AZUMA (元気ひろば「おれんじ」) (保) 一場先生 24名 ※日刊スポーツ</li> </ul> </li> <li>連続講座(三鷹ネットワーク大学) <ul style="list-style-type: none"> <li>初めての死生学 (CCRC 研究所) 蒲生先生、(保) 下島先生 18名 (10/5.12.19.26)</li> <li>ポジティブ心理学 (保) 下島先生、CCRC 研究所) 蒲生先生 15名 (10/12.19.26)</li> </ul> </li> <li>2. 予算状況について</li> <li>3. 第三者評価委員会について(10/23(月) 10時半～)</li> <li>4. ポッチャ体験の新聞記事について</li> <li>5. COC + 出張報告について</li> <li>6. COC + ふるさといわて大交流会について</li> <li>7. 2018 長期型インターンシップのプログラム提供について</li> <li>8. ポスト COC 検討会検討事項について</li> <li>9. 1/13(土) 杏林 CCRC 研究所シンポジウム開催案について</li> <li>10. 平成 29 年度 杏林 CCRC 研究所紀要について</li> </ol> <p>〈協 議〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「生きがいづくりコーディネーター養成講座」のB P移行について</li> </ol>

回	日程	場 所	議 題
第 8 回	12月18日(月)	三鷹キャンパス 本部棟6階 会議室	<p>〈報 告〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公開講演会 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 12/ 2 (土) 白内障、よく聞く話のホントのところ 医) 柳沼先生 340名</li> <li>• 12/ 9 (土) 脈は健康のパロメーター 医) 副島先生 113名</li> <li>• 12/16 (土) 習近平新体制 -中国はどう変わる? (総) 渡辺先生 103名</li> </ul> </li> <li>2. 予算状況について</li> <li>3. 第三者評価委員会について (10/23 (月))</li> <li>4. 第6回 杏林 CCRC フォーラムについて</li> <li>5. COC + 出張報告について</li> <li>6. COC + 2018 長期型インターンシップ説明会について (12/22 (金)、2限 (総) キャリア開発演習 I)</li> </ol>
第 9 回	1月29日(月)	三鷹キャンパス 本部棟11階 会議室	<p>〈報 告〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公開講演会について <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1/ 6 (土) 症状がない怖い泌尿器腫瘍 - 健康診断のポイントを伝授します 医) 多武保先生 152名</li> <li>• 1/20 (土) 介護予防とリハビリテーション - 呼吸法も取り入れた運動療法の実践 医) 一場先生 84名</li> <li>• 1/24 (水) やさしいうつ病治療を実現するために - 患者さん、ご家族向けのうつ病治療ガイドラインを参考に 医) 坪井先生 40名</li> <li>• 1/27 (土) 高齢者の難聴と耳鳴り 医) 増田先生 280名</li> </ul> </li> <li>2. 杏林 CCRC 研究所シンポジウムについて (76名出席)</li> <li>3. H29年度工程表について</li> <li>4. 予算状況について</li> <li>5. フォローアップ数値について</li> <li>6. 第6回杏林 CCRC フォーラムについて (FDSD 講演会併催)</li> <li>7. 生きがいづくりコーディネーター養成講座修了式について</li> <li>8. COC + 教育プログラム開発部会について (1/10)</li> <li>9. 新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合知の拠点事業運用規程について</li> <li>10. 市民研究協力員制度内規について</li> <li>11. ポスト COC 検討会報告について</li> <li>12. 杏林 CCRC 研究所の移転について</li> </ol> <p>〈協 議〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全学アンケートについて</li> <li>2. 人事関係について (杏林 CCRC 研究所)</li> </ol>
第 10 回	2月26日(月)	三鷹キャンパス 本部棟6階 会議室	<p>〈報 告〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予算状況について</li> <li>2. 第6回杏林 CCRC フォーラムについて (FDSD 講演会併催)</li> <li>3. COC + 滝沢市企業等見学バスツアーについて</li> <li>4. COC + 「大学教職員のためのインターンシップ研修会」参加について</li> <li>5. COC + 岩手県出身学生就職状況について</li> <li>6. COC + 外国語学部選択科目「フィールドスタディⅣ」について</li> <li>7. COC + 平成30年度補助金について</li> <li>8. 日経グローバル掲載記事について</li> <li>9. その他</li> </ol> <p>〈協 議〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生きがいづくりコーディネーター養成講座修了認定について</li> <li>2. その他</li> </ol>
第 11 回	3月19日(月)	三鷹キャンパス 本部棟6階 会議室	<p>〈報 告〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予算状況について</li> <li>2. H29年度実績報告書の提出について</li> <li>3. 杏林 CCRC 研究所紀要の発行について</li> <li>4. H29年度生きがいづくりコーディネーター養成講座修了式について</li> <li>5. COC + 平成30年度調書について</li> <li>6. COC + 出張報告について (依田、米津、全国シンポジウム)</li> <li>7. COC + 中間評価について</li> </ol> <p>〈協 議〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 来年度の人事関係について</li> <li>2. H30年度 COC + 指定型研究 (指定型)、地域活動助成費 (公募型) について</li> </ol>

# 1 教育①

## 必修授業「地域と大学」で地域を学ぶ

本学では医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部の全1年生が必修科目として「地域と大学」を受講します。授業では連携市（三鷹市、羽村市、八王子市）の職員、連携大学教員を招聘し、それぞれの地域の課題を学びます。この授業では4学部混成の201グループにわかれて、グループワークを行うことを中心としたPBL形式の授業を通じて課題解決の手法の基礎を習得します。

授業回	日程	学部	形式	内容
1	4/7	保健学部 総合政策学部 外国語学部	講義	「大学COC事業と杏林CCRC構想」 古本泰之准教授
2	4/14	医学部 保健学部	講義	「国の政策決定のプロセス～『介護保険制度』と『社会保障と税の一体改革』を例に～」 社会福祉法人全国社会福祉協議会副会長 高井康之氏
		総合政策学部 外国語学部	講義	先輩の体験談 総合政策学部：櫻沢直樹氏 外国語学部：菅野桃香氏、羽地恵理氏
3	4/21	医学部 保健学部 総合政策学部 外国語学部	講義	「みんなで話そう！ コンセンサスゲームと討論」 朝野聡准教授
4	4/28	医学部 保健学部 総合政策学部 外国語学部	講義 グループワーク	○講義 「三鷹市の医療・福祉政策について」 馬男木由枝氏：三鷹市健康福祉部地域福祉課長 ○コンセンサスゲーム 「三鷹市での定住意向の理由」 富田泰彦准教授
5	5/12	医学部 保健学部 総合政策学部 外国語学部	グループワーク	「グループワーク・KJ法を体験しよう」 進邦徹夫教授
6	5/19	保健学部 総合政策学部 外国語学部	講義	「災害に備えて安全対策を！ ～首都直下地震による被害軽減に向けて～」 野口庄司氏：八王子市財務部管財課長（元生活安全部防災課長） 奈良田恵子氏：八王子市生活安全部防災課主任
7	5/26	保健学部 総合政策学部 外国語学部	講義 グループワーク	「災害への対応」 千田晋治特任教授
8	6/2	保健学部 総合政策学部 外国語学部	発表 講評	グループワーク発表・講評 野口庄司氏：八王子市財務部管財課長（元生活安全部防災課長） 奈良田恵子氏：八王子市生活安全部防災課主任
9	6/9	総合政策学部 外国語学部	講義	「地域連携で元気な街づくり」 山下勝哉氏：(株)アトレヴィ三鷹店長 佐々木玄氏：(株)アトレ店舗マネジメント事業部
10	6/16	総合政策学部 外国語学部	講義 グループワーク	「地域における『にぎわい』を巡る論点」 古本泰之准教授
11	6/23	総合政策学部 外国語学部	発表 講評	グループワーク発表・講評 山下勝哉氏：(株)アトレヴィ三鷹店長 佐々木玄氏：(株)アトレ店舗マネジメント事業部
12	6/30	総合政策学部 外国語学部	講義 グループワーク	「羽村市の地域活性化」 小林貴純氏：(株)アサヒ代表取締役社長
13	7/7	総合政策学部 外国語学部	講義 グループワーク	「羽村市の地域活性化」 羽村綾那氏：羽村市産業環境部産業振興課
14	7/14	総合政策学部 外国語学部	発表 講評	グループワーク発表・講評 小林貴純氏：(株)アサヒ代表取締役社長 羽村綾那氏：羽村市産業環境部産業振興課
15	7/21	総合政策学部 外国語学部	講義	「地域と大学～地方創生への関わり～」 小野寺純治氏：岩手大学長特別補佐・特任教授／ふるさといわて創造プロジェクト推進コーディネーター



## 2 教育②

# 平成 29 年度「生きがいづくりコーディネーター養成講座」及び「高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム」の開講

### ● 開講式

平成 29 年 4 月 5 日（水）、井の頭キャンパスにおいて平成 29 年度「生きがいづくりコーディネーター養成講座」及び「高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム」の開講式が執り行われた。

今回で 4 回目の開講となる「生きがいづくりコーディネーター養成講座」は、三鷹市・八王子市・羽村市の各市より受講のお申込みをいただき、継続履修の方 7 名の他に、新たに 8 名を加え、15 名の履修生を迎えての開講となった。平成 25 年度採択の文部科学省「地（知）の拠点整備事業」の一環として始まった本講座は今年度、必修科目の 2 つの特別講座と 35 の選択科目を提供し、地域貢献・活性化や地域コミュニティの再生などの分野で活躍できる人材養成を目指している。

「高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム」は、平成 28 年度文部科学省「職業実践力育成プログラム」(BP) の認定をうけ、今年度より新たに開講する履修証明プログラムで、必修科目の 2 つの特別講座と 9 の選択科目を提供し、地域の活性化と健康寿命の延伸に関する知識・技術について学ぶ。初年度となる今回は、履修生 3 名を迎え、本プログラムを通して地域活動に関した更なるスキルアップを目指している。

必修科目の特別講座 2 科目は、両プログラムに共通して提供され、前期は『地域コミュニティを巡る課題とその対応』をテーマに、地域コミュニティをめぐる課題把握を含め、地域活動や地域リーダーとして生かすことができる知識やスキルを学び、後期は『アクティブライフで健康寿命を延ばす』をテーマに、健康づくりの基礎知識を学ぶと共に、地域活動を展開するための実践的な学びに取り組みむことになる。



開講式

### ● 特別講座

平成 29 年度「生きがいづくりコーディネーター養成講座」と「高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム」の必修科目として特別講座 A が 4 月 12 日から開講した。前期のテーマは「地域コミュニティを巡る課題とその対応」で、授業時間は

18:00 からの 6 限で社会人の方の履修をしやすいとしており、9 月 12 日からは「アクティブライフで健康寿命を延ばす」を後期のテーマに特別講座 B が開講された。

本講座では、地域活動や地域リーダーとして生かすことができる地域の魅力発見・魅力づくりの過程で必要とされる知識や具体的技法、多様な健康づくりの基礎知識や地域活動の実践的手法を学ぶことができる。各回が独立したオムニバス形式で、全体を通してテーマに沿った授業となっている。

参加された履修生は、興味溢れる眼差しで、シニア世代の生きがいを見出す時代への開幕を感じさせるスタートをきったようだった。



特別授業

### ● 修了式

平成 30 年 3 月 10 日（土）、井の頭キャンパスにて、平成 29 年度「生きがいづくりコーディネーター養成講座」及び「高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム」の修了式が執り行われた。

平成 25 年度に採択された「地（知）の拠点整備事業」の一環として始まった「生きがいづくりコーディネーター養成講座」からは 10 名、平成 28 年度に文部科学省「職業実践力育成プログラム」(BP) に認定された「高齢社会における地域活性化コーディネーター養成プログラム」からは 1 名が修了し、11 名の履修生に履修証明書が授与された。その後、履修生を代表して高田勉さんより、謝辞が述べられた。

また修了式後には、1 年間を振り返る懇談会が学長を交えて行われた。修了生からは「学生と学べて楽しかった」という感想や、「1 年間授業を受けて新たな興味を持ち、春から新たな挑戦を始める」、「どういう生き方をしていこうかという面でもヒントをもらえた 1 年だった」など、本講座が新たな学びや自身の生活を振り返る機会になったという声を多く頂いた。

修了生の感想を受け古本地域交流推進室長からは、「皆さんの活動や存在が本学や地域の活動を刺激しているのではないかと感じている。今後も本学の刺激となって活動していってほしい。」とそれぞれのこれからの活動に期待を寄せた。

## 3 研究①

## 杏林 CCRC 研究所セミナー報告

## ■第 32 回 杏林 CCRC 研究所セミナー

日	時	平成 29 年 12 月 13 日（水） 10 時～ 11 時	
講	師	太田ひろみ教授（杏林大学保健学部看護学科）	
テ	ー	マ	乳幼児を育てる母親の育児不安は地域のつながりのあり方により軽減するか
日	時	平成 29 年 12 月 13 日（水） 11 時～ 12 時	
講	師	金城真実医員（杏林大学医学部付属病院泌尿器科）	
テ	ー	マ	三鷹市と周辺地域での女性特有骨盤底障害を予防する医療環境の構築

## ■第 33 回 杏林 CCRC 研究所セミナー

日	時	平成 29 年 12 月 20 日（水） 10 時～ 11 時	
講	師	門馬博学内講師（杏林大学保健学部理学療法学科）	
テ	ー	マ	地域・大学・リハビリ専門職の連携による介護予防事業の効果検討

## ■第 34 回 杏林 CCRC 研究所セミナー

日	時	平成 29 年 12 月 21 日（木） 11 時～ 12 時	
講	師	一場友実准教授（杏林大学保健学部理学療法学科）	
テ	ー	マ	障がい者スポーツボッチャを通じた地域のスポーツボランティアの育成

## ■第 35 回 杏林 CCRC 研究所セミナー

日	時	平成 29 年 12 月 22 日（金） 14 時～ 15 時	
講	師	古本泰之准教授（杏林大学外国語学部観光交流文化学科、地域交流推進室長）	
テ	ー	マ	災害に備えるまちづくり研究—弱者対応の視点から—

## 4 研究②

## 杏林 CCRC 研究所コモンズ開催報告

## ■コモンズその他活動等一覧

	月 日	訪 問 者	内 容
1	平成 29 年 6 月 21 日（水）	三鷹 NPO 法人代表	共同研究についての問合せ
2	平成 29 年 9 月 27 日（水）	三鷹 NPO 法人代表	共同研究についての問合せ
3	平成 29 年 9 月 29 日（金）	共同通信社	共同通信社取材対応（ボッチャ関連） 中国新聞、埼玉新聞ほか記事掲載
4	平成 29 年 11 月 21 日（火）	三鷹市地域活動関係者、一般企業担当者	地域活動に関する情報提供
5	平成 29 年 12 月 22 日（金）	東北公益文科大学	日本版 CCRC について

## 5 研究③

# 地域志向教育研究費について

### ■平成 29 年度 地域志向教育研究費

責任者氏名	学部所属	職名	分担者	研究期間	研究・活動テーマ	区分	項目
一場 友実	保健学部 理学療法学科	准教授	理学療法学科 芝原美由紀	平成 29 年 5 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日	障がい者スポーツ ボッチャを通じた 地域のスポーツボ ランティアの育成	教育	健康寿命延伸
			実践女子大学 加藤 チイ				
奴田原紀久雄	医学部 泌尿器科学	教授	医学部付属病院泌尿器科 金城 真実	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日	三鷹市と周辺地域 での女性特有骨盤 底障害を予防する 医療環境の構築	一般	健康寿命延伸
			保健学部 下島 裕美				
市村 正一	医学部 整形外科	教授	医学部リハビリテー ション医学 岡島 康友	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日	三鷹市老人クラブに おけるロコモティブシ ンドローム対策指導者 育成-ロコモレ手帳の 活用促進と改訂	一般	健康寿命延伸
			医学部整形外科学 長谷川雅一				
太田ひろみ	保健学部 看護学科	教授	保健学部看護学科 山内 亮子 場家美沙紀 石野 晶子	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日	乳幼児を育てる母 親の育児不安は地 域のつながりのあ り方により軽減す るか	一般	生きがい創出
			保健学部健康福祉学科 照屋 浩司				
			八王子市 福田 純				
門馬 博	保健学部 理学療法学科	学内講師	保健学部作業療法学科 齋藤 利恵	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日	地域・大学・リハ ビリ専門職の 連携による介護予 防事業の効果検討	一般	健康寿命延伸
			医学部リハビリテー ション医学 山田 深				
			医学部付属病院リハ ビリテーション室 竹田 紘崇				
古本 泰之	地域交流推進室 外国語学部	室長 准教授	地域交流推進室 井上 晶子	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日	災害に備えるまち づくり研究 —弱者対応の視点 から—	一般	災害に備える まちづくり
			医学部 富田 泰彦 荻野 聡之				
			保健学部 井上 敦 千田 晋治				
			総合政策学部 進邦 徹夫 岡村 裕 三浦 秀之				
			外国語学部 岩本 和良 宮首 弘子 八木橋宏勇				
			庶務課 氏江 規雄				
			地域交流課 依田 千春				
			三鷹市役所 岡 敬祐				
			生きがいづくりコーデ イナー養成講座修了生 小高 格				
蒲生 忍	杏林 CCRC 研究所	所長 特任教授	—	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日	持続可能な少子超高 齢社会像の構築： 日本版 CCRC に 関する考察	一般	持続的発展可 能な少子高齢 社会の構築

## 「生涯スポーツの機会提供」プログラム

■実施日：平成 29 年 5 月 21 日（日）、6 月 17 日（土）、  
8 月 26 日（土）、10 月 14 日（土）、  
12 月 23 日（土）  
平成 30 年 2 月 17 日（土）、3 月 17 日（土）  
■担当者：相原 圭太 保健学部 理学療法学科 助教  
太田ひろみ 保健学部 看護学科 教授  
楠田 美奈 保健学部 看護学科 助教

### ■ 目 的

中高齢者で運動が日常化していない者や今まで運動していなかった者が運動を始めると、運動種目や運動量が不適切であるために、運動障害（腰痛や肩こり、筋肉痛など）や効果が得られなかったり（もしくは実感できなかったり）、楽しく感じられないなどによって、運動が継続されないことが多い。

そこで、個人々人への運動能力評価に基づく運動プログラム作成と適切な運動（運動種目や運動量）の助言、その後の運動効果判定や必要に応じたプログラム変更への助言等の必要な支援を行うことで運動が継続し、健康寿命の延伸を図ることが本活動の目的である。

### ■ 実施内容

平成 29 年 5 月の「はむら健康の日」では、「ロコモティブシンドローム予防」のコーナーを設け、学生と教員で体力測定やロコモ度チェック、運動や健康に関する相談会などを実施し、50 名の参加があった。

6 月以降は、羽村市スポーツセンターにて各会十数名の参加に対して個別に運動相談、体力や運動評価、体組成測定などを行った。プログラムには、主に保健学部（看護学科看護養護教育学専攻、理学療法学科）の学生が参加し、体力・運動評価の補助、ウォーキング体験会での個別指導補助や負荷量計算時の補助を担った。

加えて、年 2 回「歩こう会」と題してポールウォーキングとノルディックウォーキングの体験会を行い、計 30 名の参加者に個別の適正負荷量を設定した上でウォーキングの多様性を提案した。

### ■ 実施効果

本プログラムは、運動機能の評価のみに留まらず、運動が始められない・継続できない理由を明確にし、対象者それぞれに応じた適切な提案を行う有意義な活動になったと考える。

「歩こう会」では、本講座が契機となりポールウォーキングやノルディックウォーキングを始めた者もあり、プログラムが着実

に地域住民の運動への意識を高める一助になっていると感じた。これらのプログラムには、主に保健学部（看護学科看護養護教育学専攻、理学療法学科）の学生が参加し、体力・運動評価の補助、ウォーキング体験会での個別指導補助や負荷量計算時の補助を担った。地域住民と触れ合うことで、医療従事者に必須なコミュニケーションスキルを向上させる絶好の場となった。



羽村健康の日の運動相談の様子



歩こう会でのポールウォーキングの様子

# 八王子市・三鷹市における健幸教室の開催

■実施日：平成 29 年 7 月 22 日（土）、9 月 30 日（土）、  
11 月 25 日（土）、平成 30 年 1 月 13 日（土）、  
1 月 20 日（土）、2 月 10 日（土）  
■担当者：榎本 雪絵 保健学部 理学療法学科 准教授

### ■ 目 的

この事業の目的は、八王子市並びに三鷹市在住の高齢者を対象に、高齢者の健康に関連する講義とストレッチを中心とした運動の実践や体力測定を行う健幸教室を開催し、参加者の健康増進、健康寿命の延伸を図ること、また、参加者間の社会交流を促進することである。

### ■ 実施内容

#### ●三鷹市健幸教室

平成 29 年 7 月 22 日（土）と 9 月 30 日（土）に、井の頭キャンパス B214 実習室にて三鷹市在住の高齢者（7 月は 34 名、9 月は 26 名）を対象にストレッチを中心とした健康教室を実施した。学生は会場整備や誘導、体力測定（握力・ファンクショナルリーチ）の実践・補助、運動指導（ストレッチ）の実践・補助を行った。

また、慶應義塾大学等と実践したプロジェクト「平成 26 年度 ICT 健康モデル（予防）の確立に向けた地方型地域活性化モデル等に関する実証の請負」の参加者によって立ち上げられた自主グループ「体笑会」との共同企画にて、今年度も継続して「健幸教室」を開催した。

平成 29 年 11 月 25 日（土）の教室参加者は 26 名、参加学生は理学療法学科 6 名、その他近隣の整形外科クリニックの看護師 1 名が参加した。この回は生きがいコーディネーター講座 B 該当の活動となり、受講生 9 名と協力教員（当学部大学院生鈴木里奈氏）1 名は参加した。平成 30 年 2 月 10 日（土）の教室参加者は 36 名、参加学生は 16 名（4 年生 1 名、3 年生 15 名）で、その他近隣の整形外科クリニックの看護師 1 名が参加した。この回は JCOM の撮影があり、参加学生へのインタビューなど行われた。

#### ●平岡町体力測定会

八王子市平岡町在住の高齢者（平岡町老人会）を対象に、自主運営化した健康教室の継続支援のため、平成 27 年度以降は必要に応じた運動プログラムなどの確認と修正、体力測定を実施してきた。今年度は平成 30 年 1 月 13 日（土）に、平岡町在住の高齢者（平岡町老人会）13 名を対象に、体力測定（握力、フ

ンクショナルリーチ、5m 歩行速度、Timed up & go テストなど）を実施した。参加学生は 6 名（4 年生 1 名、3 年生 5 名）で、会場運営、誘導、体力測定の実施と記録を行った。

#### ●三鷹体力測定会

平成 30 年 1 月 20 日（土）には、三鷹体力測定会を開催した。保健学部理学療法学科教員門馬博先生、保健学部健康福祉学科医師の岡本博照先生とともに、三鷹市在住高齢者 6 名（自主グループ体笑会のメンバー）を対象に、呼気ガス分析装置を用いた体力測定その他、握力や膝伸展筋力の測定、ファンクショナルリーチの測定を実施した。岡本医師は事前に問診を行い、呼気ガス分析実施等の安全管理を行った。学生は会場設営や参加者の誘導、体力測定の実施や記録などを行った。

### ■ 実施効果

地域在住健常高齢者を対象にしたこのような活動は、健康増進・介護予防事業として着目されており、社会的意義は高いと思われる。参加者からは、学生からの指導や交流がとても有意義だったとの言葉をいただいた。

この事業で主に理学療法学生をボランティアとして参加させることは、地域住民との協働や社会交流の促進に寄与している。学生にとっても、実際に運動指導の補助などを行うことは、高齢者に対する理学療法の補助、地域理学療法の実践の機会となる。さらに、学習意欲の向上や理学療法における理解の促進を図ることとなり、教育的意義が高いと考えられる。学生からは高齢者とのかわりなど、とても勉強になったとの声があった。



三鷹市での健幸教室の様子

## 極低出生体重児の育児支援サークル「ぴあんず」

- 実施日：平成 29 年 5 月 20 日（土）、7 月 15 日（土）、  
10 月 28 日（土）  
平成 30 年 2 月 24 日（土）
- 担当者：吉野 純 保健学部 看護学科看護学専攻 教授  
岩田 洋子 保健学部 看護学科看護学専攻 講師  
中村 明子 保健学部 看護学科看護学専攻 助教

### ■ 目 的

高度医療により、極低出生体重児の多くは NICE を退院後、家庭で育てが行われ、成長発達を遂げている。しかし、治療の後遺症や特有の障害を抱えるケースも多く、育てる過程で様々な課題に直面することも多い。そのため、専門家による学習会の開催や同じような状況にある親同士の交流などを通して、親たちの子育てを支援していくことが本活動の目的である。極低出生体重児の親たちが、子育ての悩みを共有し、課題の解決に向けて取り組めるようになり、子育てを大変だけど楽しいものとして感じることができると。ひいては、子どもの健全な成長発達につながることを目的とし、活動を続けている。

### ■ 実施内容

1,800g 未満の極低出生体重児で、本学付属病院で出生した児を中心に三鷹市および近隣に住んでいる児とその家族を対象として 4 回の育児支援を実施した。

#### ● 1 回目（平成 29 年 5 月 20 日（土））

12 家族（内訳：親 16 名、子ども 13 名（きょうだいを含む））の参加者を対象に、就学前のグループと就学後のグループに分かれて「フリートーク」を行った。子どもたちは、年齢により活動場所を分けることにより危険なく過ごすことができ、比較的落ち着いた遊びに夢中になることができていた。

#### ● 2 回目（平成 29 年 7 月 15 日（土））

10 家族（内訳：親 12 名、子ども 11 名（きょうだいを含む））を対象に、「低出生体重児の学習困難」をテーマに白百合女子大学発達臨床センターから秋元有子先生を招いて講義をしていただいたあと、参加者の実体験からディスカッションが行われた。実際の生活や子どもへのかかわりに生かすことができるヒントが多く、参加者の関心ははとも高かった。

#### ● 3 回目（平成 29 年 10 月 28 日（土））

6 家族（内訳：親 8 名、子ども 8 名（きょうだいを含む））を

対象に、参加者個々の悩みなど自由に話し、お互いにサポートし合う「フリートーク」を行った。子どもの数に比して学生ボランティアが多かったため、親の会にも学生が参加し、実際の思いを聞かせていただくことができ、子どもの生活や親の抱える悩みなどを知る機会となり、大変有意義であった。

#### ● 4 回目（平成 30 年 2 月 24 日（土））

8 家族（内訳：親 11 名、子ども 8 名（きょうだいを含む））を対象に、リハビリの専門家を交え、「こどもの発達と遊び」（PT 櫻井俊光）、「言葉や食事の発達と支援」（ST 間藤翔悟）の講義を行ったあと、日々の生活の中で取り入れられる発達支援やかかわりについて活発に意見交換を行い、大変有意義であった。

### ■ 実施効果

参加者にとっては、専門家による講義や参加者のフリートークなどを通じて、極低出生体重児の育児に対する有効な情報交換の機会となった。学生にとっては、地域の方々との交流を通じ、都市型の地域課題を具体的に捉えていく力を養うことができたと同時に、学生に地域でのボランティア活動や育児の楽しさを伝えていくことができた。



親同士のフリートークの様子



学生ボランティアによる保育の様子

## 多胎育児支援活動

### 1

#### 多胎児準備クラス

■実施日：平成 29 年 6 月 3 日（土）、17 日（土）、  
10 月 14 日（土）、21 日（土）

平成 30 年 2 月 3 日（土）、10 日（土）

■担当者：太田ひろみ 保健学部 看護学科 教授  
佐々木裕子 保健学部 看護学科 准教授  
山内 亮子 保健学部 看護学科 学内講師  
場家美沙紀 保健学部 看護学科 学内講師  
鈴木 朋子 保健学部 看護学科 学内講師

#### ■ 目 的

多胎妊娠中の妊婦や家族が医療・看護の専門職や多胎育児経験者と交流を持ち、多胎特有の不安や問題の解決、ならびに多胎児の親同士の交流の場を提供することが、多胎育児支援活動の 1 つである「多胎育児準備クラス」の目的である。

#### ■ 実施内容

「多胎育児準備クラス」は、2 回を 1 コースとして、3 コース、合計 6 回実施し、延べ 109 人の参加者があった。

##### ●第 1 回目

多胎妊娠中の保護者を対象に、医師による講義「多胎の妊娠・出産の基礎知識」と、多胎育児経験者による講和「多胎妊娠・出産・育児からの学び」を実施した。

##### ●第 2 回目

多胎妊娠中の保護者を対象に、助産師による講義「多胎妊娠期の妊婦の生活と過ごし方、妊娠中の注意点、入院後の環境と生活」および多胎児家族同士の交流会を実施した。交流会では参加者の不安の軽減や疑問点の解決を目指し、父親グループと母親グループに分かれてグループワークを行った。

#### ■ 実施効果

参加者にとっては、多胎育児家族との交流を図りながら多胎育

児の話を見聞きすることで、将来への安心感につながるものとなった。また、参加した学生ボランティアは、子どもたちの保育を行うと同時に、「多胎児の親になること」について、経験者の話を聞くことにより気持ちを理解し、本活動が持つ意味について考察する機会となった。



多胎児準備クラスの講義風景



多胎児準備クラスの様子

## 多胎育児支援 「ツインズマーケット」の開催

- 実施日：平成 30 年 3 月 4 日（日）
- 担当者：太田ひろみ 保健学部 看護学科 教授  
佐々木裕子 保健学部 看護学科 准教授  
山内 亮子 保健学部 看護学科 学内講師  
場家美沙紀 保健学部 看護学科 学内講師  
鈴木 朋子 保健学部 看護学科 学内講師  
楠田 美奈 保健学部 看護学科 助教

### ■ 目 的

「ツインズマーケット」とは、本学井の頭キャンパスにおいて、多胎育児中の家族が年に一度集まる会であり、多胎育児支援活動の1つとして開催しているものである。その目的は、相互支援・教育を推進することにある。

### ■ 実施内容

第 13 回となる今回の「ツインズマーケット」では、前半は～ふたごを育てる際の平等～をテーマに、田中公子先生（心理・発達相談室こぐま室長 臨床心理士）による講演会、後半はグループワークを行った。また、華道部の応援を得て、子ども対象に生け花体験を実施した。今回の参加者は保護者 93 名、子ども 96 名の合計 189 名、本学参加者は学生 47 名、教員 6 名の合計 53 名で総計 242 名となり、その人数は年々増加している。

### ■ 実施効果

参加者からは、「他で話せない内容だったのでとてもありがたかった」、「自分だけでなくみんな頑張っているんだとわかり、心強く安心した」、「子どもたちを預けて講演会、フリートークに参加できて、貴重な機会でも有難い」等の感想をいただくことができ、多胎育児中の参加者の相互支援・教育の機会となった。

ボランティア学生は乳児から学童までの子ども達を担当し、遊び、おむつ替え、授乳、寝かしつけなど、母性看護学・小児看護学で学習した技術を再確認しながら学ぶことができた。学生からは「どんな言葉を使ったら上手くコミュニケーションをとれるのか考えながら関わった」、「年齢とおもちゃの関係が目に見えて理解することができたので、知識と実際がつながったと思う」、「3 年次の実習に向け、実践的な学びをすることができた」等の感想が聞かれ、授業や実習での学びとのつながり、今後に向けての学びを得ることができた。



多胎育児中のご家族が集まりました

## 10 社会貢献活動 生きがい創出③

### 大学・地域関係機関による地域共生システムの構築 ～子供の居場所作りを通して～

- 実施日：平成 29 年 5 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日  
までの第 2、第 4 水曜日（計 22 回）
- 担当者：富田 泰彦 医学部 准教授  
八木橋宏勇 外国語学部 准教授  
江頭 説子 男女共同参画推進室 特任講師  
加藤 雅江 患者支援センター 課長

### ■ 目 的

現在、「子ども 6 人に一人」に貧困の問題があると言われており、各地に「子ども食堂」ができています。この流れの中で、「食事の提供」にとどまらず、「親の帰りを待つ子ども」や「勉強まで目が向かない子ども」など各家庭の問題を「地域連携の力」でカバーすべく、「地域の中に居場所を作り、夕ご飯を一緒に食べ、学習支援等も広く行う」居場所づくりプロジェクト「だんだん・ばあ」

を加藤らが中心となり開催している。プロジェクトでは、三鷹市中原地域で運営している「居場所づくりプロジェクト『だんだん・ばあ』」の活動を通して、大学・地域関係機関が連携する新しい「地域共生システムの構築」を目指している。

### ■ 実施内容

平成 29 年 5 月より平成 30 年 3 月まで、居場所づくりプロジェクト「だんだん・ばあ」では 22 回の子ども食堂を開催し、2 回の地域住民への活動報告及び交流を目的とした集会を行った。

毎回の参加者は 70 名を超え、22 回の延べ参加人数は、子ども 1309 人、保護者 92 人、ボランティア 523 人であった（合計 1924 人）。ボランティアの内訳は本学関係者（医師、看護師、作業療法士、ソーシャルワーカー、教員、学生）、三鷹市役所職員、高齢者施設職員、他大学教員、他大学学生、地域住民である。通常は 16 時からボランティアが集まり夕食の作成、17 時から子ども



たちが来所するため随時学習支援を行い、夕食後にはボードゲームや塗り絵、手芸、ブロック等を用いて異年齢で遊ぶ姿が見られた。前期は、国際基督教大学に短期留学中の UCLA の学生の受け入れを4か月間行った。読み聞かせを行う地域住民のボランティアを月に一度受け入れている。また、三鷹警察署や三鷹消防署に依頼し、安全講話や消防についての講義を行っていただき、レゴブロックの専門家やけん玉の世界大会参加者を招いて子どもたちに技術を披露していただいた。

## ■ 実施効果

活動を通して、子どもたちにとっては、学生・地域関係者が協働する姿に接することによって、「安心して成長できる」「目標となる未来像を描くことができる」居場所を持つことにつながった。地域関係者にとっては、地域社会の将来を担う子どもたちのサポート活動に自ら参画することによって、「自身の経験を活かしたり、想いを活動に込めたりしながら社会貢献ができる」居場所を持つ機会となっているという意味で、生きがい創出に資することができた。

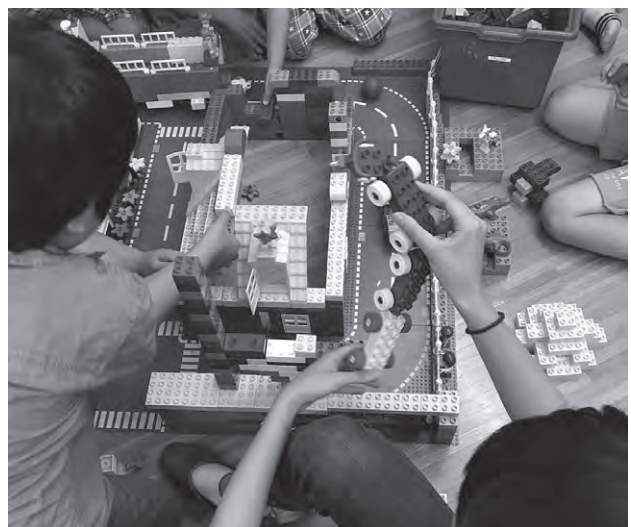
学生にとっては、子どもたちと大人の間で立つ、「自主的かつ積極的にやりがいを覚えながら地域貢献に取り組むことができる」居場所を持つことができた。



「だんだん・ばあ」ののぼり



子ども食堂で提供しているカレーライス



夕食後にブロックで遊ぶ子どもたち

## BLS 指導による実践的な災害対応能力の向上

## 1

## BLS 指導による実践的な災害対応能力の向上

〔TOKYO まちフェスタ第46回東京ブロック三鷹大会〕参加者に対する BLS 指導

■実施日：平成29年5月28日（日）

〔羽村市立第一、第二、第三中学校に対する BLS 指導〕

■実施日：平成29年6月16日（金）

〔防災訓練参加者に対する BLS 指導〕

■実施日：平成29年10月29日（日）

〔三鷹市立第一、第二、第三、第四、第六中学校に対する BLS 指導〕

■実施日：平成30年1月16日（火）、2月7日（水）、  
3月5日（月）、3月7日（水）、  
3月8日（木）、3月9日（金）

■担当者：千田 晋治 保健学部 救急救命学科 特任教授  
阪本奈美子 保健学部 救急救命学科 教授  
阿部 和巳 保健学部 救急救命学科 特任准教授  
石川 高德 保健学部 救急救命学科 特任講師  
小菅 真昭 保健学部 救急救命学科 特任講師  
下田 勲 保健学部 救急救命学科 特任講師  
井田 喜明 保健学部 救急救命学科 非常勤講師  
山崎 章彦 保健学部 救急救命学科 非常勤講師  
中島 義夫 保健学部 救急救命学科 非常勤講師

## ■ 目 的

本学救急救命学科では、学科生全員に「応急手当普及員」の資格を取得させ、地域の中学校や住民への指導が行えるように学内教育を推進している。その成果を活かすと同時に、指導技能の向上を図り、さらに本学の社会貢献活動に対する地域住民の理解を促進することが目的である。

## ■ 実施内容

平成29年度は、5月28日（日）に、三鷹青年会議所の依頼に基づき「TOKYO まちフェスタ第46回東京ブロック三鷹大会」において、救急演技及び75組202名に対して、24名の学生と教

員5名がBLSとAED使用方法について指導を行った。

6月16日（金）に羽村市立第一、第二、第三中学校の生徒505名に対し、学生37名と教員13名でBLS指導を実施した。また10月29日（日）に「三鷹市立第一中学校で開催された「三鷹市総合防災訓練」に参加し、学生22名と教員3名が防災訓練参加者約800名に対してBLS指導を実施した。

さらに、三鷹市の市立中学5校で、BLS指導を6回開催した。〈三鷹市立中学5校でのBLS指導〉

- ・平成30年1月16日（火）三鷹市立第二中学校1年生180名に対し三鷹消防署と合同で学生5名と教員2名がBLS指導を実施。（1回目）
- ・2月7日（水）三鷹市立第六中学校1年生174名に対し三鷹消防署と合同で学生6名と教員2名がBLS指導を実施。
- ・3月5日（月）三鷹市立第四中学校3年生98名に対し三鷹消防署と合同で学生7名と教員2名がBLS指導を実施。
- ・3月7日（水）三鷹市立第三中学校3年生123名に対し三鷹消防署と合同で学生8名と教員2名がBLS指導を実施。
- ・3月8日（木）三鷹市立第二中学校3年生185名に対し三鷹消防署と合同で学生5名と教員2名がBLS指導を実施。（2回目）
- ・3月9日（金）三鷹市立第一中学校3年生255名に対し三鷹消防署と合同で学生7名と教員2名がBLS指導を実施。

## ■ 実施効果

BLS指導は三鷹消防署と連携しながら、充実した講座を行うことができた。学生にとっては、能力向上のいい機会となった。



三鷹市立第一中学校でのBLS指導の様子

## 駅伝大会における救護活動の実施

[第 26 回三鷹市民駅伝大会]

■実施日：平成 29 年 11 月 26 日（日）

[第 68 回全関東八王子夢街道駅伝競走大会]

■実施日：平成 30 年 2 月 11 日（日）

■担当者：千田 晋治 保健学部 救急救命学科 特任教授  
 阿部 和巳 保健学部 救急救命学科 特任准教授  
 下田 勲 保健学部 救急救命学科 特任講師  
 石川 高德 保健学部 救急救命学科 特任講師  
 小菅 真昭 保健学部 救急救命学科 特任講師  
 神山麻由子 保健学部 救急救命学科 助教  
 久保佑美子 保健学部 救急救命学科 助教  
 上崎 梢子 保健学部 救急救命学科 助教

### 目 的

駅伝大会は人気のあるスポーツだが、激しい運動競技なので、

身体負荷が大きくケガや時には心肺停止に陥る走者もいる。そこで、救急救命学科では駅伝競走大会の参加者の安心と安全の確保を図ることを目的に、三鷹市および八王子市からの依頼により救護所における応急救護を担当した。

### 実施内容

第 26 回三鷹市民駅伝大会（191 チーム参加）の開催に伴い、本部、中継所の救護担当として、学生 8 名と教員 5 名が参加し、応急救護を担当した。

また、第 68 回全関東八王子夢街道駅伝競走大会（505 チーム、約 2020 名）の開催に伴い、本部、中継所の救護担当として学生 23 名と教員 3 名が参加し、応急救護を担当した。

### 実施効果

191 チームが参加した第 26 回三鷹市民駅伝大会や、全国から 505 チーム、約 2020 名が参加した第 68 回全関東八王子夢街道駅伝競走大会においても、大きな事故によるけが人、急病人などの発生はなかった。

参加者の安全確保が図られ、駅伝大会成功の一助となったことは、地域に密着した社会貢献活動としての誇りでもある。



第 26 回三鷹市民駅伝大会



第 68 回全関東八王子夢街道駅伝競走大会



羽村市立第三中学校での BLS 指導



三鷹市総合防災訓練での BLS 講習

## 「3市連携事業 防災に関するワークショップ」を開催

平成30年3月6日(火)と3月12日(月)の2回にわたり、「3市連携事業 防災に関するワークショップ」が開催された。

平成27年度のCOCラウンドテーブルおよびフォーラムにおいて、「杏林・羽村・八王子・三鷹が連携して3市共通のテーマを持って活動する」との提案が各市長からあり、本学と3市で打ち合わせを重ねてきた。3市が共通して取り組むことができるものとして『防災』に焦点を絞り、防災に関する知識をあまり持たないメンバーで避難所運営ゲーム(HUG)、防災ゲーム(クロスロード)を経験し、具体的な対策や解決方法を考える一助とするワークショップを開催することとし、総合政策学部の進邦教授をファシリテーターに、羽村、八王子、三鷹の3市行政関係者、市民に近い立場の履修証明プログラム受講生、職員の11名が参加して行われた。

3月6日のワークショップでは、防災に関する1時間の講義と2時間にわたるHUGの体験を行った。

講義では、福島県いわき市、相馬郡飯館村、南相馬市、宮城県名取市の事例を挙げながら、東日本大震災とコミュニティについて、地域住民の防災意識の重要性をお話いただいた。

講義の後、避難所運営に関する課題を少しでも具体的に捉え、避難所で起こりうる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するため、HUGを行った。様々な状況で、異なった家族構成の被災者に対して配慮を行いながら部屋割りを考え、生活空間の確保、視察や取材対応という出来事に対して、意見を出し合い、話し合いを重ねてゲーム感覚で避難所の運営を学んだ。

最後にファシリテーターから、防災担当にとどまらず、地域住

民にも実際にHUGを体験してもらい、防災担当者にファシリテーターを依頼するなど、各市でもこのような機会を持つとよいこと、一人でも多くの人が更なる防災意識を高め、備えあるまじぶりに貢献できることが望まれるとの提案がなされた。

3月12日のワークショップは、防災に関する講義とクロスロードの体験を中心に、2時間にわたって行われた。

クロスロードとは、実際に経験したジレンマの事例をカードにしてゲーム化し、参加者がジレンマを自分の問題として考え、「Yes」「No」のいずれかで自分の考えを示す防災ゲームである。今回は「市民編」と「神戸編」の2種類のカードを用いて経験した。災害対応については必ずしも正解があるとは限らず、過去の事例が正解でないこともあるが、カードゲームで楽しみながら災害時の問題と対応策を学んだ。

クロスロードを経験したことをうけ、ファシリテーターから一人でも多くの市民が発災時の助け合いの重要性を再認識するとともに、市民にも理解してもらいながら、市に持ち帰って有効な活用を行ってほしい、とのまとめの発言があった。

2か年にわたって行ってきた3市と大学の連携事業だが、今回のワークショップの実施で1つの区切りを迎えた。今後は、本学で行う地域活動報告会等の機会を使い、3市の課題を共有したり、1市をモデルに他市が協力し合うことや、力添えをしながら、3市ともによりよい「防災」について引き続き検討を行い、本学が持つ「知」の提供等でマッチングできることがある場合には、積極的に連携体制をとっていくこととしたい。



ワークショップでの意見交換



ワークショップの様子



ワークショップで出し合った意見とそれらを整理した様子



クロスロードを体験

## 第5回杏林 CCRC ラウンドテーブル、第6回杏林 CCRC フォーラム（FDSD 研修会 同時開催）を開催

平成30年2月10日（土）、井の頭キャンパスにおいて第5回杏林 CCRC ラウンドテーブル、第6回杏林 CCRC フォーラム（FDSD 研修会 同時開催）が開催された。

杏林 CCRC ラウンドテーブルでは、連携3市（三鷹市、羽村市、八王子市）の市長を招いて、平成29年度、ならびに5年間のCOC事業の実績報告をするとともに、市長と本学の代表者による意見交換会が行われた。本学からは、目標としていた項目の数値を上回っており、事業はおおむね達成できたことを報告し、今後も協力関係は継続していきたい旨のお願いをした。

三鷹市からは、本学と連携3市との活動が非常に充実してきたと評価され、補助事業終了にあたり、予算面の問題はあがるが、可能なものは継続していきたいとの発言があった。また、ぜひ教育のフィールドとして活用していただきたいと述べられた。

羽村市からは、連携は非常に大事であり、COC事業の目的が達成されたことは非常によかった。これからは質の問題に目を向けて続けてほしい、との発言があった。

八王子市からは、本学の八王子市との関わり方はコンソーシアム加盟25校の中でも目立つものであり、キャンパスが移転した後も継続してほしいとの発言があった。また、保健師、社会福祉士のニーズも高まっており、就職先としてお願いしたいとも述べられた。

跡見学長は、大学と3市で協働していることが中間評価の際も高く評価されたので、これからも続けていきたい。学生のフィールドとして行政に関心を向けてくれることを続けてほしいと述べた。

第6回杏林 CCRC フォーラムは、文部科学省高等教育局大学振興課係長、三鷹市長、羽村市長、八王子市市民活動推進部長など地域の関係者をはじめ、跡見裕（学長）をはじめとする本学教職員や学生の142名が参加して開催された。

フォーラムでは、連携3市からの言葉をいただいた後、本学の地域交流推進室長から実績紹介を行い、地域志向教育研究活動の一環として、医学部市村教授より「地域におけるロコモティブシンドロームの活動報告」、保健学部門馬学内講師から「地域と大学とリハビリ専門職の連携による介護予防事業紹介」を行った。地域志向教育の実践報告では、学生の地域志向化に向けた具体的な教育と社会貢献の紹介を交えながら8グループの学生が発表を行った。どの活動も連携市をフィールドとし、地域とのかかわり方を学んだ後の実践活動報告だった。

閉会の挨拶では跡見学長より「COC事業は終了するが、今後も連携市とともに協働しながら更に地域に根差した地域活動を継続していく」とまとめられ、盛況のうちに終了となった。

地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）は最終年度となったが、平成27年度から遂行されている「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」に発展吸収され、岩手大学を中心とした地域創生に向けた取り組みも進めている。本学が手掛ける様々な地域活動は、地域の方々のニーズと知の提供をマッチングさせながら、今後も更に尽力し、地域と共に成長していく所存である。



杏林 CCRC ラウンドテーブルの様子



フォーラムの様子



フォーラムで発表する学生



学生発表の様子

## 連携市での様々な活動（羽村市、三鷹市、八王子市）

### ● 学生が企画した“「競技かるた」でつなぐ地域の輪～老若男女で学ぶ競技かるた講座”

羽村市生涯学習センターゆとろぎと杏林大学の連携講座第2弾として、平成29年12月9日（土）に“「競技かるた」でつなぐ地域の輪～老若男女で学ぶ競技かるた講座”を実施した。これは連携講座の実行委員5人が企画した講座の2つ目で、東京大学かるた会の方々から講師を依頼して実現した。定員30名のところ40名近くの方に参加していただき、座学だけでなく実際に体を動かしてかるたを楽しむことができるなど、印象に残る会となった。また、読売新聞・西多摩新聞・テレビはむらの取材を受け、この活動が広がり始めていると実感できる機会ともなった。

実行委員で外国語学部倉茂ほのかさんは「当日は小学校低学年から90歳を超える高齢の方まで幅広い世代の方に参加していただけたので、世代を超えた交流の機会にもなり、私たちの目標も達成されてやりがいを感じました。」と感想を伝えてくれた。



競技かるたを体験する様子

### ● 平成29年度『青梅・羽村ピースメッセンジャー』に総合政策学部と外国語学部の学生が参加

羽村市と青梅市の中学生を広島へ派遣し、戦争の悲惨さと平和の大切さを心で感じ取ってもらう「青梅・羽村ピースメッセンジャー」事業が平成29年8月4日（金）～6日（日）に行われ総合政策学部の田嶋克侑さんと外国語学部の佐藤智子さんの2名が参加、中学生を率いるチームのリーダーとして活動した。現地では、広島平和記念資料館の見学や平和祈念式典に参加、被爆者から体験談を聞くなど、平和の大切さを心で感じ取る活動ができた。

帰京後の8月20日（日）には平和をテーマにしたワークショップと報告会が行われ、2名の学生は「戦争を過去の歴史として捉えるだけでなく、広島を自分の中に留めておきたかった」、「中学生を支援しながら、大学生として今しかできない事に挑戦したかった」などと、未来へ向けて記憶の継承に繋げる意欲的な思いを語ってくれた。



中学生を率いて歩く本学の学生

### ● 総合政策学部の学生提案のイルミネーション装飾と激辛はむりんのイラストが採用されました！

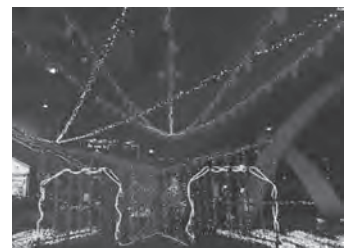
平成29年10月7日（土）～22日（日）、JR青梅線小作駅で若手事業者が中心となり、地域経済活性化を目指した「第3回はむらイルミネーション」が開催された。

「激辛フェス」のイベントでは、総合政策学部の木暮ゼミナールの小岩真生さんが提案した「はむりん」のイラストが採用された。また、同ゼミの根津佳明さん、堀込真歩さん、碓大毅さんは、イルミネーションのトンネル等の原案を提案。何度も地域の方々と検討を重ねた末にイルミネーションの装飾が完成し、イベントに明るさを届けることができた。

羽村市からは「学生と地域と行政の協働が素晴らしい輝きとなりました」との総評をいただいた。学生にとっては地域をフィールドに個性を活かした有意義な活動ができ、地域活動の意欲にもつながる体験となった。



提案した「はむりん」のイラストが入ったポスター



完成したイルミネーションの装飾

## ●東京 2020 オリンピック・パラリンピック フラッグツアー、東京都パラリンピック体験プログラムで地域貢献

平成 29 年 4 月 29 日（土）、三鷹中央防災公園・元気創造プラザ SUBARU 総合スポーツセンターにて、東京 2020 オリンピック・パラリンピック フラッグツアー、東京都パラリンピック体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」が同時開催された。東京 2020 オリンピック・パラリンピック フラッグツアー終了後に行われた東京都パラリンピック体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」では、本学ボッチャクラブが、試合とボッチャ競技体験会を実施した。本学ボッチャクラブからは 3 年生の 6 名が選抜され、試合は東京都庁チーム、三鷹市チーム、杏林大学チームの総当たり戦を実施した。

体験会には多くの小学生や地域住民の方 100 名近くが参加され、実際のボッチャを体験して「とてもおもしろい」「またぜひボッチャをやりたい」との感想が聞かれた。



ボッチャ体験をする地域の方々

## ●三鷹市立南浦小学校の児童との外国語での交流授業に参加

平成 30 年 2 月 28 日（水）、三鷹市立南浦小学校に中国出身の留学生 7 名が訪問した。6 年生の外国語活動・社会科「世界とつながる日本」授業の発展として、英語を用いて交流するのが目的であった。留学生は、事前に準備した自国についての写真を見せながらわかりやすい英語で話し、小学生が英語に慣れてきたところで、将来の夢、好きな科目やファッションなどの質問をした。質問に対し、小学生は自分の知っている英語を十分に使い、時にはジェスチャーを交えたりしながら一生懸命に自分の意思を伝えた。また、小学生からも留学生に質問をするなど、英語でのコミュニケーションを楽しんでいる様子がみられた。

参加した留学生たちからは、「とても楽しい時間で、貴重な経験ができた」との声があがった。別れを惜しむ小学生たちの姿に留学生たちも感動を味わう交流の機会となった。



小学生との交流授業の様子

## ●“三鷹市の医療と福祉”をテーマに、医学部 1 年生の「地域と大学」の学習発表会を実施

平成 29 年 10 月 27 日（金）、医学部 1 年生が地域の医療や福祉の現場について学ぶ必修科目である「地域と大学」の学習発表会が、三鷹キャンパスの大学院講堂で開催された。

これから医師への道を歩む 1 年生が、三鷹市の医療や福祉について各グループで設定した課題に沿って体験を通して学んだり、さまざまな立場の方々に話を伺ったことをプレゼンテーションした。

この活動は社会が医師や医療従事者に望んでいることを実感できるカリキュラムとなっており、後日 16 グループの中から、最優秀賞、優秀賞が選ばれ、表彰式が行われた。



医学部の学生プレゼンテーションの様子

## ● 八王子市で開催された「第12回★学生天国★」に模擬投票とマジックショーで参加。

平成29年5月14日（日）、八王子地域合同学園祭「第12回★学生天国★」が八王子駅前で開催され、総合政策学部木暮ゼミ生24名とマジッククラブのメンバーが参加してイベントを盛り上げた。

木暮ゼミナールは選挙啓発の一環として、実際に選挙で使用する備品をブース内に設置し「八王子ラーメン総選挙！」を実施した。参加した学生は「小さい子供たちが模擬投票を体験し、選挙のことを少しでも理解してもらえると嬉しいです。」と、地域活動への意欲的な意見を伝えてくれた。マジッククラブのメンバーは通行人の目の前で、クローズアップマジックとジャグリングを披露したり、来場者にマジックを体験してもらうなどの活動を展開した。またバルーンアートも無料配布し、来場者から多くの笑顔をいただいた。学生たちは個々の力を発揮しながら地域活動に取り組んでいた。



バルーンアートをつくる学生たち



木暮ゼミナールの学生たち

## ● 第9回大学コンソーシアム八王子学生発表会で、総合政策学部生が優秀賞、奨励賞を受賞！

八王子市学園都市センターで平成29年12月9日（土）・10日（日）、産学連携及び地域活性化につなげることを目的とした“大学コンソーシアム八王子学生発表会”が開催された。

これは学生が日頃の研究成果を企業、学生、市民の前で発表する機会であり、参加した本学総合政策学部生が『学生が八王子市長へ直接提案！』部門で優秀賞などを受賞した。久野ゼミナール生（市村優典さん、大國真紀さん、高野真衣さん、高橋凌さん、長谷川貴一さん、平井貴大さん）が、「八王子発『省力型』人材マッチング制度の提案」で優秀賞を受賞。「高尾山着せ替え作戦」の発表で木暮ゼミナール生（小岩真生さん、近藤佳さん、鈴木幸香さん、根津佳明さん、橋本真希さん）は奨励賞を受賞した。木暮ゼミナールの小岩真生さんは「この経験を自分たちの今後に活かしていきたいと思います」との感想を伝えてくれた。



木暮ゼミナール生による「高尾山着せ替え作戦」発表の様子



## 平成 29 年度 FD/SD 研修会を開催

平成 29 年 7 月 19 日（水）、講師に共愛学園前橋国際大学の大森昭生学長をお招きし、「地域連携による学びの共有と高大接続～共愛学園前橋国際大学の事例～」と題して「第 4 回高校と大学をつなぐ FD/SD」研修会を開催した。杏林 AP 推進委員会主催、杏林 CCRC 拠点推進委員会と中期計画 FD/SD 実行部会の共催で行われたこの FD/SD では、148 名の参加者が熱心に先進的事例を学んだ。

講演では、共愛学園前橋国際大学が行っている地学・教職・学職一体のグローバル人材育成について、具体的なお話をうかがった。人材育成の方向性は、「地元で育てて地元に戻す」という地方創生に寄与するものであり、学生や卒業生が地学一体で地元の企業と連携し、ビジネスの実践活動や演習を行っていることなどが紹介された。最後に、本学に期待することとして、杏林大学と地方高校、地方大学がアドバンストブレイスメントで結びつき、都内の高校も参加する「地方創生に寄与する都心大学モデル」と「先端の高大接続型入試モデル」の提案があった。閉会に際して、

スノードン副学長から挨拶があり、大盛況のうちに 1 時間 30 分の研修会は幕を閉じた。なお、平成 30 年 2 月 10 日（土）に開催された杏林 CCRC フォーラムを平成 29 年度第 2 回目の FD/SD 研修会として同時開催した。



「地域連携による学びの共有と高大接続～共愛学園前橋国際大学の事例～」講演の様子

## 杏林大学 地（知）の拠点整備事業 平成 28 年度事業にかかる第三者評価報告書

- 日 時：平成 29 年 10 月 23 日（月）10：30～13：00
- 場 所：杏林大学 井の頭キャンパス C 棟 5 階 応接室
- 出席者：第三者評価委員（敬称略）：
  - 委員長 井藤 英喜（（地独）東京都健康長寿医療センター 理事長）
  - 委員 中村 秀一（（一社）医療介護福祉政策研究フォーラム 理事長）
  - 委員 関谷 博（羽村市社会福祉協議会顧問）
- 杏林大学：
  - 跡見 裕（学長）
  - 古本 泰之（地域交流推進室長）
  - 蒲生 忍（杏林 CCRC 研究所長）
  - 依田 千春（地域交流課長・COC 事業事務主担当）

### 第三者評価報告書

平成 28 年度事業報告をもとに、第三者評価委員から以下のように事業成果に対する評価、意見、助言を受けた。

#### 1. 平成 28 年度における報告事項

##### 【教育】

平成 27 年度から実施している「地域と大学」の授業内での 4

学部合同授業を引き続き行った。平成 28 年度のアンケートでは 95%程度の学生がこの科目を通じて連携自治体との関連性、大学と地域の在りようを理解したという回答が得られた。昨年度ご指摘をいただいた「就職に向けた考え方」についての「成果の把握」に関しては、85%の学生が問題解決力が身についたという自己判断数値がある。「取り組んだ事の結果というものを学生たちが社会に対して自分できちんとアピールできるようにしていくように」というご指摘に関しては、4 年生、3 年生に対して、地域活動を通して何が身についたかを整理させるような機会を設けることとし、同時にこの 5 年間の成果を明らかにするために、定性的なアンケートを今年度実施している。

##### 【研究】

本研究所の主な活動として、「知の創造」、「知の普及」、「知の実践」と区分し、①地域志向研究の採択（5 件）、②研究成果の普及、③本事業に関する講演会の開催を遂行している。

平成 28 年度は平成 27 年度の検討に基づく学際的研究活動を発展的に継承し、本学保健学部の照屋教授、下島准教授等に杏林 CCRC 研究所の兼任研究員を委嘱していることから様々な研究を遂行し、「杏林 CCRC 研究所紀要」に掲載している。また、医学部腫瘍内科の長島副所長に加わっていただき、高齢者医療に関する研究機能を強化することができた。研究の増加とともに、公開講演会についても年度ごとに参加者が大幅に増加している状況

である。

また、平成 28 年度では杏林 CCRC 研究所の内規により「市民研究協力員」という制度を策定し、市民の方とともに研究を行う制度を整えた。いずれの案件も研究の成果として 100 ページを超える杏林 CCRC 研究所紀要にて発表している。

### 【社会貢献】

社会貢献活動としては、保健学部を中心に当初予定していた 20 件を超え、かなり進んでいるものと考えている。生きがいづくりコーディネーター養成講座では、平成 28 年度のキャンパス移転をきっかけに、若干名の受講生から 17 名の受講へと大幅に人数が増加した。そのうち 14 名に履修証明プログラムの修了証を授与した。昨年度ご指摘をいただいた受講修了者の活躍の場として、今後政府により地域に配置される方針である「生活支援コーディネーター」の存在が挙げたことを受け、情報を収集し、連携市の動きも確認しているが、現状では適合がなされていないという判断であり、引き続き情報収集を行う。

平成 28 年度の生きがいづくりコーディネーター受講修了生の中で、自宅の空きスペースを改修し、市民の交流拠点とする活動が始動している。本活動には受講修了生の仲間が深く関与しており、昨年度の委員会にて同様にご指摘をいただいた学生や地域の方々の止まり木になる場としても活用できると考える。

また、三鷹市で実施している小中学生への学習補助「みたか地域未来塾」の依頼があった際、学習支援員として、学生のみならず、生きがいづくりコーディネーター養成講座受講生を派遣することができ、現在も継続した活動として続けている。

## 2. 総論

全体的に非常にきめ細やかに活動されている。学内向けの広報も含め、かなりの労力と組織化による努力が認められ、COC 活動の全貌を把握することができる。強いて挙げるのであれば、この 5 年間を通じて今後の杏林大学の地域活動の売り物になるような継続可能な事業が出来上がったかということ、その点は少し弱いという意味で、残る 1 年で何を残せるか、新しく試みることがないかを検討していただきたい。

また、地域のニーズを吸い上げることも肝要だが、特に医学部では「こんな機器があったら、器具あれば」という要望があるはずなので、その要望を地域に投げかけて、そのような機器、器具の開発を試みようという業者を探してみるといったことは、地場産業の育成にもつながるのではないかと。その際、行政がある程度開発資金を支援するという仕組みがあれば、大学と地場産業の共同による新規機器、器具の開発といった事業が実現できるのではないかと。

このように、地の拠点として、一方的な要望に対応するだけでなく、より良い地域を構築していくための積極的な交流を双方向に行う工夫も必要ではないかと。また、3 市と積極的に関わっている割に、医学部や保健学部への介護予防、健康増進、あるいはフレイルやロコモティブシンドローム対策などに関する行政からの協力要請が少ない印象を受ける。とくに、介護予防に関しては、介護保険の事業から各自治体が行うべき事業となったので、各自治体が苦心しながらプランを構想しているところなので、医学・医療系を持っている杏林大学の長所を生かして、地域のブレインとして、そのような事業に活用してもらえらるシステム作りが今後の課題として挙げられる。

各行政が費用の 1/4 を負担する介護保険制度は、国民健康保険制度とともに、各自治体の大きな負担になっている。その意味で、今後、介護予防、高齢者の健康増進、健康寿命延伸対策が、各自治体の非常に大きなテーマになるだろう。こうしたテーマに沿った各自治体の事業への参加者のデータを収集し、分析を行い、連携市の特性にちなんだ地域差が見られた場合には、その原因を明らかにし、各自治体に結果を返す、返された結果に基づき各自治体が事業内容を見直すといった PDCA サイクルができれば、杏林大学の地域での存在意義や、大学と自治体との連携が可視化ができるのではないかと。このようなサイクルから、行政ニーズに引っ掛けた呼び水となるような提案（例えば、各自治体に適した介護予防対策など）をするのも、大学と自治体の協働のきっかけになるのではないかと。各自治体の各事業担当者も大学との連携事業で得られた情報が本業の改善に使えるというメリットがあると、大学からの提案ということで、それを縦割りで話し合いが難しい自治体内の諸部局間の話し合いをすすめる武器にできるという効果があると思う。

また、現在の社会状況から考えると、保育の面や、障がい児を抱える家族への地域からのサポートや医療系のサービスが少なく、病院を頼っているところが多く見受けられるが、今現在の時世では重度の障がい、症状であっても在宅を希望する傾向にあるため、この辺りのテーマも模索できるかもしれない。政治的な面から着目しても全世代に社会保障していく方向性も見受けられるため、元気な高齢者が子供たちを支援する循環ができるといいのかもしれない。活動報告に医学部の教員と三鷹市老人会とのロコモ活動があったが、どこの地域でも専門職の方が地域で活躍してくださることを非常に期待しているようだ。ロコモ活動では、市とCOC事業の両方で請け負っているとのこと、このような案件は非常に良いことだと思うので、この例を踏まえて専門職の方を派遣し、指導を行うというのも各行政に働きかける材料の一つとなるだろう。

全学的に取り組んでいる正課授業「地域と大学」は苦勞も窺えるが、偏差値の全く異なる 4 学部の学生を混成した地域と大学でのグループワークなども長期的にいい結果を生み出すものと思われる。COC 事業をして様々な大学が様々な工夫をなされているようだが、要はこの COC 事業が何を残せるかが課題となるだろう。

例えば、大学として、規模の小さい羽村市をフィールドとして、もう一度取り組みをきっちりと行っていくことも可能だと思う。実際、羽村市で行っているスポーツ機会提供プログラムに参加している高齢者と参加していない高齢者の介護保険のデータを比較することで、スポーツ機会提供プログラムなどの健康活動の効果の評価が可能になるだろう。将来的には地域連携・地域調査を行う部門を設け、地域交流推進室といったような分かりやすい名称とし、そこを介して地域調査を行っていく活動など、行政と繋がる取り組みは今後 COC 事業の遺産として残していけるのではないかと。また、ソーシャルキャピタルの面から鑑みると、人付き合いのいい高齢者は介護対象になりにくいように、本人の身体能力だけでなく、環境要因も関連してくるとされている。となると、介護予防や健康増進を目指したまちづくりも健康寿命延伸と同様に更なる発展を期待できる案件になるのではないかと。COC 事業の一環で掲げている防災の観点からは、杏林大学は井の頭キャンパスのスペースと、医学部のある三鷹キャンパスをどう使い分けていけるか、三鷹市と協議を重ねていくことも必要だろう。

## ①地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナーへの出席

- 実施日：平成 29 年 9 月 7 日（木）、8 日（金）
- 訪問者：青柳優子（地域交流課係長）
- 訪問先：福岡県福岡市

今年度より井上特任講師に代わりコーディネーターを務めることとなり参加した。和歌山大学主催のセミナーで今年度で 6 回目を迎えたというこの「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」は、①地域連携に関わる教職員・コーディネーターの人材育成、②大学と地域の発展に向けた輿論づくり、③地域型サテライトへの着目 の 3 点を目的として 31 大学 44 名が集い、合宿型で開催された。1 日目はアイスブレイク・自己紹介修了後、パネルディスカッション等が開催された。法政大学でコーディネーターを務める本野直子氏、高知大学地域連携推進センターの吉用武史准教授、和歌山大学でコーディネーターを務める後藤千晴氏をパネリストとして迎え、和歌山大学地域活性化総合センターの西川一弘准教授がコーディネーターとして「期限付きのコーディネーターとしてどのようなサバイバルプランを構築しているか」「次世代への循環、自身のキャリア形成に対する考え方と努力」等、建前ではないディスカッションが繰り広げられ、非常に興味深い意見交換がなされた。これを受けて国立大学協会専務理事である山本健慈氏より、「社会と大学の関係の大きな転

換期を迎えている今こそ、時代に立ち向かいながら経営を考察していく時期である。大学に対する評価軸に地域は切り離せない」とまとめられた。2 日目に行った 3 事案目のグループワークでは、仮想大学のコーディネーターとして各々がもつ経験やアイデアを最大限に引き出して行われた。私たちのグループでは「地域からの要望や依頼を断ってはいけない!」という暗黙の常識を破り、判断基準にちなんだ「お断りのススメ」について深く協議を行った。

その地域活動は①学生の学びにつながるか、②教員の研究につながるか、③学生の獲得につながるか、④学問の発展につながるか、⑤大学のイメージアップにつながるか、⑥地域への社会的貢献につながるかを考察し、コーディネートしてこうと結論付けた。この議論内容は『大学と地域を繋ぐ連携のありかた：コラボレーションポリシー』と題し、和歌山大学の田代特任助教と宮城大学の中島調査研究員が論文としてまとめられ、和歌山大学の「大学地域連携研究 vol.5」にて掲載されている。地域と大学を繋ぐことを業務として遂行する中、同じような悩みを持った方々との議論と交流は非常に有意義で濃厚な時間となった。また、今回のセミナーを通じて他大学の有効な方法論を共有できたと同時に、コーディネーターの熱意やアイデア、経験や知識が各大学の発展につながる方法を引き続き模索するべきだと感じた。

②ひょうご神戸プラットフォーム第 3 回 COC + シンポジウム  
地域で育むイノベーション人材 ～新しい挑戦～ への出席

- 実施日：平成 29 年 12 月 22 日（金）
- 訪問者：青柳優子（地域交流課係長）
- 訪問先：兵庫県神戸市

本イベントは、COC に採択されておらず、COC+ の採択校として推進している神戸大学にて行われた。今まで行ってきた地域活動について、教員、学生からの報告会を含んだシンポジウムであった。

最初に理事で副学長である内田先生からのお話では、COC+ に採択され、今年度は 3 年目の中間年であることから、地元での魅力ある生き方、働き先を考えさせる機会を提供すべく地域活動を推進しており、日頃の活動が日経グローバル 327 号に掲載された「大学の地域貢献度ランキング」で 10 位にランキングされたとのこと。地域志向化に関するテキストの開発にも尽力し、「地域歴史遺産と現代社会」「子育て支援と高齢化社会」等、テキストが次々と発行され、地域活動だけではなく、地域志向の体系化が進んでいる。次に奥村地域連携推進室長から COC+ 事業の推進にあたり、地域連帯のプラットフォームを形成、構築しているというお話があり、3 名の異なる立場の方から具体的なイノベーション人材育成の取り組みについて報告をいただいた。神戸市企業立地課の IT 専門官である吉永さんは奇抜なイノベーションを

壊さない、潰さない環境を作り、最適な地盤を提供することが大切である、一流の天才を求めるのではなく、新規性を打ち出せる好ましい環境を提供することができれば学生から社会を変えるのではないかと結んだ。神戸大学の鶴田准教授からは、自身が開く『未来道場』（未来社会創造研究会）の活動報告があった。イノベーション人材を「課題に取り組む際に必要な考え方の考え方を根底に備え、科学専門知識とデータサイエンス知識を有し、これらをマネジメントする能力を有する人材」と定義し、コミュニケーション能力と「やってみなはれ」精神を持った学生の輩出を目標としている。アクティブラーニングを通じて養った能力を HULT PRIZE 神戸大学大会（ソーシャルビジコン）に参画することで発表を行い、アイデア力を競った。兵庫県立大学頭師准教授からは新しい人材育成の取り組みを伺った。1 学年 1,200 名で 50～60%が県内学生、30%が県内就職とのこと、9 割の学生が兵庫県内企業の就職を検討している反面、第一希望者は 2 割、県内に残る学生は働く意欲が弱い学生が多いという結果が出ている。大学教育だけで人材育成をすることは難しいことから、地元定着に資する教育プログラムのひとつである地域キャリア論 I II で地元企業やキャリア・ライフプランを学ばせている。

第 2 部として、学生活動 3 件と教員の研究活動 1 件の報告がなされた。学生活動としては、子どものためのコンサートを開催し、

『初めて』演奏会に行くきっかけづくりを補助したり、空き家を解体、飲食店向けに建築したり、『篠山』の魅力の世界に伝えるべく商品開発を含めた観光プロジェクト(14項目)を進めている。空き家を使った「プロジェクト福良」は学生のみで活動で神戸大学では2例目となる。活動には予算がついており、共通して学生から出てきた言葉は自ら活動したい気持ちから参加しており、単位や成績等の不憫さはさいという。神戸大学近藤准教授が学生を巻き込んで行っている「被災地定点観測を通じた多世代災害語り継ぎと手法の開発」の活動内容として、タブレット片手に散策し、現在の町の様子と震災目の地図をマッチングし、データを位置づける作業を行うと同時に震災経験者から多世代の未経験者の語り部の育成に尽力している。活動に伴う課題として学生の持続的な確保があるという。本学の地域交流活動を進めるうえでも同様の課題があることから、今後も他大学の動向も参考にしたい。今回、

学生発表時間の制限が厳しく、肝心のまとめや活動に対する成果については聞くことができなかった活動もあった。本学でも同様の会を催す際には時間を厳守することを第一目的として進行しているが、発表の際の時間調整は報告会全体を左右するものだと感じた。同時にこうして他大学の報告会に参加してみると、本学の地域交流活動はかなり進んでいるのではないかと感じた。最後の講評の部分では、地域に定着してもらうというCOC+本来の課題に対する成果を出していただきたいという言葉があった。今回は地域で育むイノベーション人材についてのシンポジウムであったが、共通して話に上がったことは、組織の中ではどう動かなくてはならないのかの考える力を持ちながら多様性を受け入れることが肝要であり、専門性への配慮を行いながら自治会等では行政がしっかり入り込む必要があるとあった。

### ③ 「地方が描く日本の未来」シンポジウム・分科会への出席

- 実施日：平成30年3月2日（金）、3日（土）
- 訪問者：太田ひろみ（保健学部教授）  
青柳優子（地域交流課係長）
- 訪問先：高知県高知市

#### 1日目：シンポジウム 地方が描く日本の未来

立命館アジア太平洋大学学長 出口 治明氏による「日本の未来を考えよう」と題した基調講演が行われた。出口氏の講演は人間のものの見方や思考はどのような特性を持つかという広い視野に立ったものから始まり、知の拠点の中心にあるのが大学であり、大学は常識を打破し多様性を創生することが役割であると述べた。思考するときには縦糸と横糸を織りなしていくこと、縦糸は日本の歴史であり横糸は世界でありその両方を見える化することが大事である。物事をしっかりと捉えるときには、縦と横を見て数字・ファクト・ロジックのみで考え、データを目で見るのが大切である。それによって、見たいものしか見ようとしないう人間の本能を脱却した思考ができるというお話しであった。また、日本が直面している少子高齢化、国際競争力の低下の問題を取り上げ、これらの課題を解決するための方策の例として少子化対策ではフランスのシラク3原則を取り上げたお話しをされた。シラク3原則とは①子どもを持っても新たな経済的負担が生じない環境づくり、②無料の保育所の完備、③育児休暇から女性が職場復帰する際には、長年会社で教育され、貢献し、指導されてきた貴重な人材として不利なく企業は受け入れる。この3原則を取り入れたらと提案された。また、高齢化対策では高齢者の認知症を予防するには定年を引き延ばして70歳にするなど、認知症予防に一番効果的な「動くこと」が最大の予防になると話された。また、国際競争力の低下の対策としては、女性が今後ますます社会で活躍できるように整備されることが肝要で、女性の課題となる育児においては「3歳児神話」が科学的根拠のない精神論であったことが証明されたことから、むしろ育児は父親にお願いし、男性の脳からオキシトシンの放出を促し、積極的に育児に関わってもらうことで夫婦双方に好ましい関係が構築され、結果的に一挙両得になるのだ、と非常にユニークなお話しをされた。

その後パネルディスカッションでは3人のパネリスト（岩手県政策地域部地域振興室定住・交流促進専門員 清水健司氏、大阪

大学 梅村仁氏、三菱総合研究所 松田智生氏）が「地域連携の長期的継続に向けて」をテーマにプレゼンテーションと討論が行われた。地域連携の視点から大学教育をとらえると、今の大学教育に欠けているものは多様性をどう担保していくのかという点であるという松田氏のプレゼンテーションが印象的であった。海外の大学と異なり、日本の大学には18歳から25歳ぐらいまでの年齢の学生しかいない。学生の年齢の多様性の幅が狭いということは学ぶことの多様性に欠けるということである。多様性の確保のために誰でもいつでも学びたいときに通える大学を作らないといけない。例えば50歳になったらもう一度大学に行くというような社会にすることも必要であり、そのためには大学のあり方を変える必要がある。大学が持っているものの価値（人、物、知恵といった資源）は相当なものがある。それらを求める人に大学を有効活用してもらうことで多様性を担保することが必要であるというお話しであった。

パネルディスカッションのまとめとして以下の3点が述べられた。①学内プレイヤー（教員・職員・学生）のかかわりをどのように広げ、深化させていくか、学内の体制をどのように確立していくかについて：ネットワークシステムが重要であり、直接会って意見を言い合う場所、集う場所を作ること、フラットな組織にすること、多様性を確保することなど。②学外の自治体・地域住民・産業界とのかかわりをどのように広げ、深化させていくか：地域連携には専門性が必要だという考えは誤りである。まず、可能性を共有化し、具現化すること。逆参勤交代のような方法（企業の社員に方で働いてもらう）というやり方も考えられる。また、地元が地域連携活動に参加した大学生を評価する仕組みを作ることでも考えていく必要がある。

③長期的な活動を担保するために必要な財政的基盤をどのように築いて行けばよいか：財政的基盤なしで自立していく仕組みをどう構築していくか、この課題はどこの大学でも課題になっている。連携をすることが目的ではなく、連携という手段を用いて目的を実現する。目的達成のための連携であるべきであり、新たな地域づくりのプラットフォームが出現しつつあることへの期待についても言及された。

#### 2日目：分科会 組織的地域連携について

「学生の地元定着について」「地域における雇用の創出について」

「組織的地域連携について」の3つのテーマで分科会が行われ、このうちの「組織的地域連携について」の分科会に参加した。COC + 推進体制について、地方公共団体や企業等と教育機関の連携と、学内実施体制をどのように工夫しながら事業を進めているかについて、COC + 事業採択校のうち13の国立大学から発表があった。報告大学がすべて国立大学であることから、多くの自治体と包括連携協定を結んでいる。各大学の協定締結数は20から30におよび、県内すべての自治体と連携する予定という大学もあった。富山大学からは地域連携を積極的に進めるための中核的組織として、自治体と協働した地域再生人材育成事業の紹介があった。地域の若手企業経営者が地域資源を活用しながら第二創業するための支援を行っており、事業化率は50%に達しており、ネットワーク化を進めることにより、県内のみならず県外へもノウハウを移転して事業展開を行っていることが紹介された。また、高知大学では土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業について紹介された。これは食品分野での研究開発人材の育成を行う事業で、平成20年に着手し、平成30年までの10年間の

連携の変容について説明があった。初期は一部のキャンパス周辺の自治体と協力体制を構築、平成25年からは連携企業や金融も加わり、県全域でフードビジネスクリエーターの育成を行い、さらに平成30年度からは民間企業と包括協定を結んで連携し、研究開発人材の育成を行っていく予定である。10年間の活動を通して地域にどれだけの人材育成ができたかという点では、述べ490名のフードビジネスクリエーター人材の創出と、新しい商品が生まれ、実際の売り上げにつながってきており平成28年度の売り上げは6.8億円となった。人材育成の具体的な方法は、教育プログラムの構築、国の認定制度を取り入れていること、県内食品産業の専門家が課題を大学に持ち込み、教員が指導するという形をとっていることが紹介された。

大学が地域連携の中でできること：教育研究分野では個々に行われていた研究を組織的に行っていくこと、研究成果の活用、資源のフル活用等。産学連携では協働研究、産業人材育成、インターンシップ。地域連携では防災、まちづくり、医療、福祉、観光、地域政策など、大学ができることがある、とまとめがあった。

## 公開講演会・公開講座

本学では平成 29 年度において、大学が持つ知的資源をより広く地域市民に還元するため、地（知）の拠点整備事業のテーマである「生きがい創出」「災害に備えるまちづくり」に関連したテーマの他、知識や教養に結びつく多数の公開講演会を実施しました。本学井の頭キャンパス三鷹キャンパスのほか、三鷹市・三鷹ネットワーク大学、羽村市、羽村市生涯学習センターゆとろぎ、八王子市・八王子学園都市センターを会場として、計 24 回開催しましたが、いずれの会にも多数の聴講者が来場し、おおむね好意的な評価が寄せられました。

### 平成 29 年度公開講演会

NO.	日程	時間	講演タイトル	学部	講師	開催場所
1	5月13日(土)	14:00-15:30	うつについて改めて知ってみませんか？ (杏林医学会主催)	医学部	渡邊衡一郎教授	三鷹ネットワーク大学
2	5月20日(土)	14:00-15:30	腸内フローラと健康	医学部	神谷 茂教授	三鷹ネットワーク大学
3	5月27日(土)	13:30-15:00	口腔ケアと手術 - あなたの知らない口の中のお話し	医学部	池田哲也講師	三鷹キャンパス
4	6月3日(土)	13:30-15:00	女性のトイレトラブル - 自分でできる対策と予防	医学部	金城真実医員	三鷹キャンパス
5	7月8日(土)	11:00-12:30	自分らしく生きるヒント - 高齢期のアドバンスケアプランニング	保健学部	角田ますみ准教授	井の頭キャンパス
6	7月8日(土)	13:30-15:00	地域で支える認知症	医学部	長谷川 浩准教授	井の頭キャンパス
7	7月22日(土)	13:30-15:00	ことばの能力	外国語学部	金田一秀穂教授	井の頭キャンパス
8	9月2日(土)	13:30-15:00	新しいキズの治し方 - キズってどうやって治るの？	医学部	大浦紀彦臨床教授	井の頭キャンパス
9	9月9日(土)	13:30-15:00	親子で目指す「TOKYO2020 ボランティア」最初の一步	外国語学部	野口洋平准教授	井の頭キャンパス
10	9月30日(土)	13:30-15:00	どうなるトランプ政権と日米関係	総合政策学部	松井孝太講師	八王子学園都市センター
11	10月14日(土)	11:00-12:30	訪日外国人から見た“隠れた日本の魅力”	外国語学部	安江枝里子准教授	井の頭キャンパス
12	10月14日(土)	13:30-15:00	知っておきたい“頭痛の基本”	医学部	宮崎 泰講師	井の頭キャンパス
13	10月21日(土)	13:30-15:00	脱毛症と再生医療 - 適応となる疾患から幹細胞・iPS細胞を用いた毛包再生まで	医学部	大山 学教授	三鷹キャンパス
14	10月28日(土)	13:30-15:00	心臓病とどうつきあうか	医学部	吉野秀朗教授	八王子学園都市センター
15	11月2日(木)	14:00-16:00	認知症を理解するために	医学部	長谷川 浩准教授	羽村市生涯学習センターゆとろぎ
16	11月18日(土)	14:00-16:00	日常生活にちょっと役立つポジティブ心理学	保健学部	下島裕美准教授	羽村市生涯学習センターゆとろぎ
17	11月18日(土)	13:30-16:00	増えている炎症性腸疾患 (IBD) について知ろう！ (杏林医学会主催)	医学部	久松理一教授	三鷹キャンパス
18	12月2日(土)	13:30-15:00	白内障、よく聞く話のホントのところ	医学部	柳沼重晴助教	三鷹キャンパス
19	12月9日(土)	14:00-15:30	脈は健康のバロメーター	医学部	副島京子臨床教授	三鷹ネットワーク大学
20	12月16日(土)	14:00-15:30	習近平新体制 - 中国はどう変わる？	総合政策学部	渡辺 剛教授	三鷹ネットワーク大学
21	平成 30 年 1月6日(土)	13:30-15:00	症状がない怖い泌尿器腫瘍 - 健康診断のポイントを伝授します	医学部	多武保光宏講師	八王子学園都市センター
22	1月20日(土)	14:00-15:30	介護予防とリハビリテーション - 呼吸法も取り入れた運動療法の実践	保健学部	一場友実講師	三鷹ネットワーク大学
23	1月24日(水)	13:30-15:30	やさしいうつ病治療を実現するために - 患者さん、ご家族向けのうつ病治療ガイドラインを参考に	医学部	坪井貴嗣講師	羽村市生涯学習センターゆとろぎ
24	1月27日(土)	13:30-15:00	高齢者の難聴と耳鳴り	医学部	増田正次講師	三鷹キャンパス

平成 29 年度八王子学園都市・いちよう塾 【前期 (4 月～8 月)】

NO.	開催日	時間	講座名	講師
1	平成 29 年 4 月 8 日～6 月 24 日 10 回 (各土曜日)	13:30-15:00	近世小説世界 ～井原西鶴の『好色一代男』を読む～	外国語学部 元教授 草場 裕
2	4 月 8 日～6 月 24 日 10 回 (各土曜日)	15:20-16:50	古今悪女譚 ～中国古典『列女伝』、近世小説『好色五人女』より～	外国語学部 元教授 草場 裕
3	5 月 10 日～6 月 28 日 7 回 (各水曜日)	13:30-15:00	シェイクスピアの世界 ～『ロミオとジュリエット』の悲劇性について～	外国語学部 元教授 川地 美子
4	5 月 17 日～7 月 5 日 6 回 (各水曜日)	15:20-16:50	文明論で迫る西欧とバチカン ～かれらの知恵とこだわり～	外国語学部 元特任教授 上野 景文
5	5 月 24 日～6 月 7 日 3 回 (各水曜日)	15:20-16:50	いちから分かるシェイクスピア	外国語学部 元教授 川地 美子
6	6 月 9 日～7 月 7 日 5 回 (各金曜日)	10:20-11:50	認知症のケアとリハビリテーション・作業療法	保健学部 教授 下田 信明
7	6 月 9 日～6 月 30 日 4 回 (各金曜日)	13:30-15:00	はじめての死生学	杏林 CCRC 研究所 特任教授 蒲生 忍 保健学部 准教授 下島 裕美
8	6 月 9 日～6 月 30 日 4 回 (各金曜日)	15:20-16:50	日常生活にちょっと役立つポジティブ心理学	杏林 CCRC 研究所 特任教授 蒲生 忍 保健学部 准教授 下島 裕美

平成 29 年度八王子学園都市・いちよう塾 【後期 (9 月～3 月)】

NO.	開催日	時間	講座名	講師
1	平成 29 年 10 月 11 日～12 月 20 日 8 回 (各水曜日)	15:20-16:50	文明論で迫る日本、西欧 ～自然中心主義の日本、人間中心主義の西欧～	元客員教授 上野 景文
2	10 月 26 日～12 月 14 日 7 回 (各木曜日)	13:30-15:00	シェイクスピアの世界 ～「ヘンリー五世」-王とは? 国家とは?～	外国語学部 元教授 川地 美子
3	11 月 2 日～11 月 16 日 3 回 (各木曜日)	15:20-16:50	いちから分かるシェイクスピア	外国語学部 元教授 川地 美子
4	12 月 21 日～1 月 18 日 3 回 (各木曜日)	19:00-20:30	政治・社会と言葉	外国語学部 教授 玉村 禎郎 外国語学部 准教授 八木橋宏勇
5	平成 30 年 1 月 22 日～3 月 12 日 7 回 (各月曜日)	18:30-20:00	コミュニケーションからことばを捉える「開放系言語学」への招待 ～日本語と英語を中心に、戦時体験の語りからネット上の言語まで～	外国語学部 准教授 八木橋宏勇
6	1 月 25 日～2 月 22 日 4 回 (各木曜日)	10:20-11:50	人生の終焉を如何に迎えるか? 考えておくべきこと ～終末期医療、救急車の適正かつ効果的な利用法などを考えます～	総合政策学部 特任教授 橋本雄太郎

**COC+ 実務報告 ①**

**「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」について**

「地(知)の拠点整備事業」成果報告書

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)は、平成25年度から「地域のための大学」として、各大学の強みを生かしつつ、大学の機能別分化を推進し、地方再生・活性化の拠点となる大学の形成に取り組んできた「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」を発展させたものであり、各大学が地方公共団体や企業等と協働して学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取り組みを支援することを目的とした事業である。

本学では平成27年度から、「COC+」大学(事業責任大学)である岩手大学がすすめる「ふるさといわて創造プロジェクト」事業に参加校として取り組み、活動を展開している。

**[事業計画・内容]**

平成29年度は、COCにおいて取り組んできた「新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合知の拠点」形成プロジェクトの着実な展開を踏まえ、岩手をフィールドとする「いわて・杏林交流プロジェクト」を企画・運営することとした。事業組織のふるさといわて創造協議会内に設置したふるさといわて創造部会と教育プログラム開発部会等に積極的に参加することに加え、地域創造人材の学びを展開していくため、外国語学部の選択科目を岩手県釜石市を舞台として開講した。また、キャリア支援活動、普及活動として、インターンシップ・企業等見学ツアーの参加を促進すべく積極的な情報の提供・参加、本学の地域交流活動に熱心に関わった学生に「ふるさと発見!大交流会 in IWATE 2017」(岩手大学主催)で発表してもらおうなど、プロジェクトに沿った取組みを展開した。



釜石市関係者とグループワーク



大交流会へ参加した様子



釜石市にて現地を見学



岩手県で実施される実践型インターンシップの案内の様子



## COC+ 事業における杏林大学の取り組み（平成 29 年度）

## 授業への招聘

件名	日程	場所	出席者	内容
必須科目「地域と大学」に招聘	平成 29 年 7 月 21 日 (金)	杏林大学 井の頭 キャンパス	小野寺純治氏 (岩手大学長特別補佐・特任教授)	総合政策学部、外国語学部の 1 年必修科目「地域と大学」において、岩手大学の COC + の取組や地方創生への関わりについて講義をいただいた。

## 会議、現地訪問等への参加

件名	日程	場所	出席者	内容
ふるさといわて創造協議会運営委員会 ふるさといわて創造部会・作業部会	平成 29 年 5 月 12 日 (金)	岩手大学	依田千春 (地域交流課 課長)	ふるさといわて創造協議会運営委員会、ふるさといわて創造部会に出席し、本学の取組みについて述べた。
ふるさといわて創造プロジェクト外部評価委員会	5 月 22 日 (月)	岩手大学	古本泰之 (地域交流推進室長) 井上晶子 (地域交流推進室特任講師)	ふるさといわて創造プロジェクト外部評価委員会に出席した。COC+ コーディネーターからの、事業概要説明に続き、外部評価委員からの質疑が行われた。
ふるさといわて創造協議会運営委員会 ふるさといわて創造部会・作業部会	7 月 5 日 (水)	岩手大学	依田千春 (地域交流課 課長)	ふるさといわて創造協議会運営委員会、ふるさといわて創造部会に出席し、本学の取組みについて述べた。
ふるさといわて創造協議会全体会議	7 月 18 日 (火)	岩手大学	跡見裕 (学長) 古本泰之 (地域交流推進室長)	ふるさといわて創造協議会全体会議に出席し、本学の取組みについて述べた。
いわてキボウスター開拓塾 (キボスタ) 第 2 期最終報告会 & 交流会	8 月 10 日 (木)	岩手大学	古本泰之 (地域交流推進室長)	岩手県の地域再生、活性化につなげる活動として岩手県の特産品を紹介する事業を進める機会とすべく、地域志向教育の情報収集を行った。
ふるさといわて創造協議会教育プログラム開発部会	9 月 7 日 (木)	岩手大学	依田千春 (地域交流課 課長)	ふるさといわて創造協議会教育プログラム開発部会に出席し、本学の取組みについて述べた。
授業内容の新規導入調査	9 月 20 日 (水) ～ 22 日 (金)	岩手県 釜石市	古本泰之 (地域交流推進室長)	地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業への参加に伴う授業内容の新規導入のため、現地調査、情報収集を行った。
ふるさといわて創造協議会教育プログラム開発部会	11 月 1 日 (火)	岩手大学	古本泰之 (地域交流推進室長)	ふるさといわて創造協議会教育プログラム開発部会に出席し、本学の取組みについて述べた。
ふるさと発見！大交流会 in Iwate 2017	11 月 19 日 (日)	岩手大学	青柳優子 (地域交流課 係長) 田嶋克侑 (総合政策学部) 蛭谷真梨奈 (外国語学部)	地元就職への機運の向上、イノベーション創出の機会提供を目的として開催された交流会に参加した。
地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業への参加に伴う現地調査	12 月 6 日 ～ 8 日	岩手県 釜石市	古本泰之 (地域交流推進室長) 井上晶子 (地域交流推進室特任講師)	釜石市関係者への授業内容趣旨説明、産学連携事業の視点から特産物を取り上げ、食を利用した学生による活性化企画を進める目的で(株)アトレとの合同現地視察をおこなった。
ふるさといわて創造協議会教育プログラム開発部会	平成 30 年 1 月 10 日 (水)	岩手大学	依田千春 (地域交流課 課長)	ふるさといわて創造協議会教育プログラム開発部会に出席し、本学の取組みについて述べた。
外国語学部選択科目を岩手県で開講	2 月 5 日 (月) ～ 8 日 (木)	岩手県 釜石市	古本泰之 (外国語学部 准教授 地域交流推進室長) 井上晶子 (地域交流推進室特任講師)	釜石市の地域課題調査、釜石市関係者によるワークショップへの参加や市内各所の視察を通じて、被災地域の復興と観光まちづくりについて考察する場とした。
ふるさといわて創造協議会運営委員会 ふるさといわて創造部会・作業部会	2 月 20 日 (火)	岩手大学	依田千春 (地域交流課 課長)	ふるさといわて創造協議会運営委員会、ふるさといわて創造部会に出席し、本学の取組みについて述べた。

件名	日程	場所	出席者	内容
東北インターンシップ推進コミュニティ	平成30年 2月27日(火)	岩手県民情報交流センター	米津哲也（キャリアサポートセンター課長）	大学教職員のためのインターンシップ研修会へ参加した。
グローバル人材フォーラム	3月29日(木)	共愛学園前橋国際大学	清水みさ子（国際交流課 課長） 岩本久美子（国際交流課 課長補佐） 青柳優子（地域交流課 係長）	「地域に必要とされるグローバル人材育成」成果報告会に参加した。

### インターンシップ、就職等に関する情報提供・参加

件名	日程	場所	出席者	内容	
キャリア教育内でインターンシップ告知	LO活インターンシップ準備講座	平成29年 5月30日(火)	杏林大学 井の頭 キャンパス	総合政策学部、外国語学部1年生～3年生対象 キャリアサポートセンター	キャリアサポートセンター職員が授業の一部やセミナー開催時に、NPO法人WIZの主催する2017年夏季実践型インターンシップについて、チラシを配布し説明周知した。
	地方就職のススメ!【ライフプラン編】	6月27日(火)			キャリアサポートセンター職員がセミナー開催時に、岩手大学の地域・学生団体Orahoが主催する「学生による学生のためのインターンシップ in にしわが」について説明周知した。
	地方就職のススメ!【しごと研究編】	7月18日(火)			
	総合政策学部「キャリア開発演習Ⅱ」	11月17日(金)		総合政策学部3年生対象 キャリアサポートセンター	キャリアサポートセンター職員が授業の一部やセミナー開催時に、NPO法人WIZの主催する2018年春季実践型インターンシップについて、チラシを配布し説明周知した。
	総合政策学部「ライフプランニングⅡ」 「キャリア開発論Ⅱ」	11月22日(水)		総合政策学部1年生、2年生対象 キャリアサポートセンター	
	外国語学部「キャリアデザイン」 「キャリア指導Ⅱ」			外国語学部2年生、3年生対象 キャリアサポートセンター	
地方就職講座&内定者座談会	12月26日(火)	総合政策学部、外国語学部1年生～3年生対象 キャリアサポートセンター			
滝沢市岩手県内事業所見学バスツアー	平成30年 2月22日(木)	岩手県滝沢市	宇部りか子（総合政策学部）	岩手県内の事業所（企業、市役所）を見学するツアーに参加し、企業等を訪問した。	

# 地域交流活動報告書 目次

---

## 健康分野での地域交流活動

フライングディスクを用いた健康増進事業	45
アクティビティトイを用いた高齢者支援	45
高齢者・障害児者の音楽療法を基とした生きがい創出活動	46
発達障がい児に対する野外活動支援	46
障がい児・者のスポーツを支える活動	47

## 教育分野での地域交流活動

HIV 感染予防に関する情報提供	47
外国人旅行者向け観光ボランティア育成プログラム	48
いのちの大切さを子どもに—幼児期の子どもたちへの性教育—	48

## 地域活性化分野での地域交流活動

鎌倉浄智寺写真供養感謝祭の企画・運営	49
三鷹における地域活性活動を通じた実践教育	49
災害時対応の公共サイン（英語表示）調査と英語講習会立案・実施	50
JR 東日本八王子支社・みたか都市観光協会との連携による 「駅からハイキング」プログラムの作成・実施	50
青梅市御岳山 外国人誘致プロジェクト	51
各種情報交換・共同研究を推進した地域貢献活動と交流活動	51
災害復興期における地域再建支援活動	52
atre vié 三鷹との地域連携活動	53
三鷹の地域資源を活かした散歩企画の立案・実施 (アトレヴィ三鷹との地域連携活動)	54

## その他の分野での地域交流活動

秋田県湯沢市・秋の宮温泉郷との連携協定に基づく活動に参加	55
その他の主な地域交流活動（一部掲載）	56

---

本学と三鷹市・羽村市・八王子市との連携	57
メディア紹介	60

## 健康分野での地域交流活動

保健学部 理学療法学科（門馬博ゼミナール）

### フライングディスクを用いた健康増進事業

指導教員名 門馬 博 学生代表者 山田 彩乃（保健学部）

#### ■ 概要

平成29年5月の東京都障害者フライングディスク大会（全国障害者スポーツ大会予選）、および8月の全国障害者高齢者フライングディスク競技大会で運営ボランティアを務め、参加者と交流を深めるとともに競技の特性について知る機会を持った。そのうえで、三鷹市井の頭コミュニティセンターにて活動する高齢者のサークル「すずらの会」を対象として、介護予防講座と合わせたフライングディスクの体験事業を行った。

#### ■ ねらい

フライングディスク競技の特性から、地域高齢者の健康増進、生きがい創出にも応用が可能であると考えられ、地域高齢者の健康増進、介護予防という観点から、体験事業を行うこと。

#### ■ 成果

フライングディスクは、男性高齢者の参加が期待できるスポーツ競技としての側面をもつ。今後は多世代交流事業として、地域活性化、および地域課題解決へ向けた展開の可能性があると考えられた。本活動を通じて、学生は、活動意欲を高める事の重要性を実感することができた。



「すずらの会」での介護予防講座の様子



フライングディスク大会でのボランティアの様子

保健学部 作業療法学科（齋藤利恵ゼミナール）

### アクティビティイを用いた高齢者支援

指導教員名 齋藤 利恵 学生代表者 宮田 沙弥（保健学部）

#### ■ 概要

平成29年4月30日（日）から月1回程度、特別養護老人ホーム愛全園を学生3名ほど共に訪問し、施設スタッフに手伝っていただきながら、10名ほどの施設利用者とアクティビティイを用いて交流した。

#### ■ ねらい

要介護高齢者に対し、アクティビティイを用いて、①運動機能、②認知・心理機能、③コミュニケーション能力、④ADL動作の維持・向上を目指し、学生の要介護高齢者の理解を深め、活動施設内でのアクティビティイの活用を構築すること。

#### ■ 成果

学生ボランティアの導入により、普段口数が少ない利用者が、

アクティビティイを通して積極的に話をされていた。機能訓練を拒否する利用者も、学生の励ましで普段より長く立ち上がって作業する場面が見られた。

参加学生にとっては、「自らやらなければならないことを見つけ、自分から進んで取り組む力」が必要であることを実感し、習得に努める機会を得ることができた。



アクティビティイで交流する様子

## 健康分野での地域交流活動

保健学部 音楽療法で地域を明るくする学生の会

### 高齢者・障害児者の音楽療法を基とした生きがい創出活動

指導教員名 只野 喜一 学生代表者 東原口 利也 (総合政策学部)

#### ■ 概要

平成 29 年 4 月 22 日 (土) から月 1 回程度、社会福祉法人東京弘済園にて 50 名ほどの利用者に依頼演奏を実施。また、練馬区立関町児童館 (6/3)、三鷹市商工会「第 40 回 みたか商工まつり」(7/16)、三鷹市老人クラブ連合会「創立 50 周年記念 第 42 回芸能大会」(10/21)、高齢者マンション・サンシティ吉祥寺「きっしょう祭」(11/11) での依頼演奏を実施した。

#### ■ ねらい

三鷹市の高齢者福祉施設やイベントを訪問し演奏活動を行うことで、地域の高齢者や子供たちに音楽の楽しさを伝えること。また、参加者に鈴やカスタネット、歌詞カードを配布することによる演奏への参加や、必要に応じた音楽療法的な指導により、ADL 維持や QOL の向上を支援すること。

#### ■ 成果

演奏を通して高齢者や子供たちに音楽の楽しさを伝えることにより地域住民の方々に生きがいや楽しみを見つけていただくことができ、地域の大きなイベントに複数回参加できたことで地域活性化にも寄与できた。参加学生が高齢者や児童と交流することで医療人・社会人として必要な資質 (コミュニケーション能力や接遇の仕方など) を磨く機会となった。



サンシティ吉祥寺「きっしょう祭」での依頼演奏の様子

保健学部 きらめきハッピーキャンプ

### 発達障がい児に対する野外活動支援

指導教員名 太田 ひろみ 学生代表者 江藤 遥輝 (保健学部)

#### ■ 概要

平成 29 年 8 月 11 日 (金) から 12 日 (土) の 1 泊 2 日で、発達障がいがある子ども (小学生・中学生・高校生) 12 名、保護者 8 名、学生ボランティア 19 名、教員 7 名が参加し、埼玉県秩父市中津川において実施。川遊び、イワナのつかみ取り、学生企画のお楽しみ会、森の散策、物づくり (フォトスタンド作成) などのプログラムを実施した。

#### ■ ねらい

##### 【活動の目的】

①発達障がいがある子どもたちが自然の中で余暇を楽しみ、体験・交流を通して人間形成を促進すること、②ご家族は日常生活から離れリフレッシュし、日頃の悩みを他のご家族と共有する機会とすること、③学生は発達障がいのある子どもたちの理解促進、専門知識や技術の定着、人間的成長を目指すこと。

#### ■ 成果

これまでの継続した活動から、地域の当事者と大学とのネットワークが少しずつできあがってきている。

学生にとっては、発達障がい児の行動特性や社会性の特徴だけでなく、子どもをほめることの大切さ、子どもたちの発想力の豊かさ、保護者の方々が地域や学生に対する期待、等を身を以て理解することができる場となった。



きらめきハッピーキャンプ参加者たち



アクティビティーの様子

## 健康分野での地域交流活動

保健学部 理学療法学科（芝原美由紀ゼミナール）

### 障がい児・者のスポーツを支える活動

指導教員名 芝原 美由紀 学生代表者 山田 沙恵子（保健学部）

#### ■ 概要

主な活動は、①車いす陸上ラストラダの練習参加、②ボッチャ選手の練習協力、ボッチャ大会の運営協力、③ボッチャの普及講習会協力、横須賀市民と交流試合である。

平成 29 年 10 月 28 日（土）の車いす陸上練習への参加や、11 月 25 日（土）には横須賀市の健康づくりイベントに参加、平成 30 年 2 月にはボッチャ指導や大会にボランティアとして学生が参加した。また、新たな支援活動を検討するため、横浜ラポールで行われている障がい者スポーツを見学した。

#### ■ ねらい

身体障がい児・者がスポーツ活動に楽しんで参加できるように、具体的な支援活動を行うこと。車いす陸上とボッチャ以外の障がい者スポーツについてもどのような支援が必要か検討すること。

#### ■ 成果

障がい者スポーツの体験イベントに協力してきたこれまでの蓄

積をもとに、今年度は地域住民とボッチャで交流試合をすることができ、地域の中での理解が一段階進んできた。今年度の活動では卒業生の協力も得られ、学生は社会人となっても地域の中で活動する様子を身近に見聞きすることができた。地域で活動するためには継続していくことと自主性が大切になることが分かり、学生の意識に影響を与えることができた。



横須賀市の健康づくりイベントの様子

## 教育分野での地域交流活動

総合政策学部 北島勉ゼミナール

### HIV 感染予防に関する情報提供

指導教員名 北島 勉 学生代表者 藤原 寿紀（総合政策学部）

#### ■ 概要

平成 29 年 5 月 14 日（日）に八王子駅北口ユーロードにおいて開催された第 12 回学生天国（八王子市内の大学等による合同学園祭）で、八王子市保健所感染症対策課の保健師らと、学生天国来場者に対して、HIV に関するクイズやパソコンを使った恋愛シミュレーションの実施、ポスターの掲示など、HIV/ エイズに関する情報提供を行った。

#### ■ ねらい

第 12 回学生天国において、八王子市保健所と合同で、HIV/ エイズに関する理解を促進するための情報提供を、来場者に対して行うこと。

#### ■ 成果

HIV への感染予防に関する情報提供を行ったことで、今後、

予防行動が実践されることが期待され、健康寿命の延伸に寄与するものと思われる。学生は、事前の準備や当日の来場者へのプレゼンテーションを通して、HIV/ エイズに関する基礎知識を習得することができた。また、自らが学んだことを他の人に伝えることの楽しさも実感することができたと思われる。



学生天国での HIV 感染予防に関する情報提供の様子

## 教育分野での地域交流活動

外国語学部 野口洋平ゼミナール

### 外国人旅行者向け観光ボランティア育成プログラム

指導教員名 野口 洋平 学生代表者 青木 茉実 (外国語学部)

#### ■ 概要

平成29年10月21日(土)と11月12日(日)に、ふつうの暮らし(下町の暮らし)の中にある新しい東京の魅力を発見・発掘するなどのフィールドワークを実施。12月16日(土)には、東京を訪れる外国人を想定した(1)災害時の英語対応、(2)東京の新たな魅力の発見、の2点をテーマにして、中学生12名が参加した現役大学生によるワークショップを実施した。

#### ■ ねらい

「地域の魅力の発掘」に重点を置いた事前調査と、市民向け講習会から構成される活動を通じて、東京都の各地域が外国人旅行者を受け入れる際の準備のひとつとしての「観光ボランティアの育成」に貢献すること。

#### ■ 成果

参加した中学生がボランティアとして自分たちができることは

何か、東京の新しい魅力は何かをワークショップを通じて実践的に学ぶことができた。

学生は、中学生と交わることで、自らの東京観光、ボランティアに関する知識や経験、考えをまとめることができた。



中学生が参加した観光ボランティア育成のワークショップ

保健学部看護学科ボランティア 「いのちのおはなし会」

### いのちの大切さを子どもに—幼児期の子どもたちへの性教育—

指導教員名 佐々木 裕子 鈴木 朋子 学生代表者 萱生 萌水、鮫島 彩香 (保健学部)

#### ■ 概要

平成29年度は、三鷹市内保育園で8回、小金井市保育園で1回、八王子市児童養護施設で1回、延べ12回のおはなし会を実施した。参加した子どもの総数は245名、保護者35名、保育園職員約35名であった。

#### ■ ねらい

①性に先入観のない幼児期から生活の中で生じる性に関する疑問や心配事に周りの大人が対応し、生まれることや生きることについて子ども達が素直に受け止められる土台を形成すること、②活動を継続することで、お話し会のねらいが保護者に浸透すること、③活動する学生にとっても、人間の性とは何かといった命の原点について自ら問い直す機会となること。

#### ■ 成果

参加した保護者から、「これからの生活の中でおはなし会で聞いたことを繰り返し伝えていきたい」、「こどもの質問にきちんと向き合っていきたい」、「活動を継続してほしい」との意見が多く

聞かれた。幼児期から性教育を行うことの大切さを理解していただき、親と子のコミュニケーションの架け橋として、いのちや性について考える機会となった。学生にとっても、自分自身の性や命に向き合う機会となった。



「いのちのおはなし会」の様子

## 地域活性化分野での地域交流活動

外国語学部 宇佐美貴浩ゼミナール

### 鎌倉浄智寺写真供養感謝祭の企画・運営

指導教員名 宇佐美 貴浩 学生代表者 堤 真洋 (外国語学部)

#### ■ 概要

平成 29 年 11 月 11 日 (土) に行われた「鎌倉浄智寺写真供養感謝祭」に、宇佐美ゼミの 3 年生 14 名が参加し、現地自治体との調整、ポスターや SNS、および杏園祭における写真関連企画の実施による広報活動、当日のイベント参加者約 150 名への対応など、当該イベントの企画・運営全般を実施した。

#### ■ ねらい

毎年 11 月第 2 土曜日に開催するこのイベントを、将来的には鎌倉の観光イベントとして定着させ、地域活性化を促進すること。また、当該活動を通して、地域振興に関するプロジェクトがどのような過程を経て実現するかを体験するとともに、地域の人と文化と産業が共生していくことの大切さを学ぶこと。

#### ■ 成果

参加者の方々に、鎌倉五山ひとつである浄智寺が地域の貴重な観光ツールであることを認識していただき、当該イベントが地域活性化を促す取り組みであることをご理解いただき、こころ豊かな時間を共有することができた。

学生は、当該活動を通して、地域振興に関するプロジェクトを成功させるための知識と技術を身に付けることができた。



鎌倉浄智寺写真供養感謝祭の活動風景

### 保健学部 花で地域を活性し隊 (花と緑と交流でまちづくり) 三鷹における地域活性活動を通じた実践教育

指導教員名 楠田 美奈 学生代表者 福島 妙恵華 (保健学部)

#### ■ 概要

平成 29 年 9 月 23 日 (土) に高齢者施設 (社会福祉法人東京弘済園) との交流目的の華道会を行い、華道を通してコミュニケーションを図った。また、12 月 28 日 (木) から 1 月 4 日 (木) にアトレヴィ三鷹での年末年始のいけばな展示での華道部の作品展示を実施した。さらに、3 月 4 日 (日) には、井の頭キャンパスで多胎育児家庭のためのイベント『ツインズマーケット』の保育プログラムとして、いけばな体験を実施した。

#### ■ ねらい

三鷹における地域活性活動を通じた実践教育として、「花で地域を活性し隊」の活動を行い、地域活性の新しいふれあいの場を創出すること。

#### ■ 成果

3 つの実践を通じて地域の方との交流が図られた。今後も、花

を通じた老若男女を問わない交流の機会が増えることで、地域活性化に貢献できると考えている。学生には、①コミュニケーションスキルの向上、②相手の目線や動きに合わせることの大切さによって、他者理解を促進させる教育的効果、③自らの希望を、どのように相手に伝えれば納得してもらい、次の行動につなげられるかの『交渉する能力』、の 3 つが得られた。



アトレヴィ三鷹での年末年始のいけばな展示を行った「花で地域を活性し隊」



## 地域活性化分野での地域交流活動

外国語学部 倉林秀男ゼミナール

### 災害時対応の公共サイン（英語表示）調査と英語講習会立案・実施

指導教員名 倉林 秀男 学生代表者 市川 直希（外国語学部）

#### ■ 概要

平成29年10月21日（土）と11月12日（日）の2日間に実施した東京新宿エリアと下町エリアでの公共サインの調査を経て、都内の観光地で地震が発生したことを想定した外国人への避難誘導と、だれにでも使える「簡単で」、「わかりやすく」、「覚えやすい」英語表現集を作成した。このフィールドワークと作成テキストに基づき、12月16日（土）に野口洋平准教授のゼミと合同でボランティア育成講座を実施し、13名の参加者に対して、ロールプレイ形式による英語の学習と演習を行った。

#### ■ ねらい

公共サインについての現地調査を行い、訪日観光客にとってわかりやすい公共サインについて考え、その成果として訪日観光客に対する災害時の初動対応としてわかりやすい英語表現集を作成し、講習会等で使用すること。

#### ■ 成果

異文化間コミュニケーションの観点から防災意識を高めること

が本活動の大きな成果であると言える。学生にとっては、生活に密着した実用的な英語について考えるきっかけとなり、中高生に教えることで、プレゼンテーション能力を高め、社会貢献について考えることができた。



事前調査風景



事前調査に参加した学生たち

外国語学部 志村良浩ゼミナール

### JR 東日本八王子支社・みたか都市観光協会との連携による「駅からハイキング」プログラムの作成・実施

指導教員名 志村 良浩 学生代表者 阿部 夢花（外国語学部）

#### ■ 概要

平成29年11月2日～6日の5日間、JR 東日本八王子支社が主催するウォーキングイベント「駅からハイキング」の学生企画プログラムとして、JR 三鷹駅発着の「江戸の二大上水を巡る三鷹の自然満喫ハイキング」と銘打ったハイキングイベントを実施した。

約半年前の平成29年5月から十数回にわたって、観光資源の発掘、立ち寄りポイントを想定した各種事業者との交渉・調整、コースの設定、パンフレットの企画・校正などを学生が主体的に担当し、この「学生が考えた駅からハイキング」は一般参加者数が1,362名という大きなイベントとなった。

#### ■ ねらい

JR 東日本八王子支社、みたか都市観光協会および外国語学部・志村ゼミナールが協働し、季節に応じた地域の魅力を楽しめる

ウォーキングイベントである「駅からハイキング」のプログラムを作成・実施すること。

#### ■ 成果

三鷹市の観光面での振興に寄与するとともに、「産官学」の連携など学外での学びの場を提供することで、学生のコミュニケーション能力や事業運営能力を高めることができた。



「学生が考えた駅からハイキング」当日の風景

## 地域活性化分野での地域交流活動

外国語学部 高木真佐子ゼミナール

### 青梅市御岳山 外国人誘致プロジェクト

指導教員名 高木 真佐子 学生代表者 熊田 奈留実 (外国語学部)

#### ■ 概要

平成 29 年 7 月 16 日 (日) から 17 日 (月) は男子による、7 月 28 日 (金) から 29 日 (土) は女子によるモニターツアーを実施し、青梅商工会議所の協力を得て青梅地域の様々な魅力を発見できた。ツアーの様子は、毎日新聞の記事 (8 月 7 日付) にもなった。また、八王子芸者のめぐみ氏から、アトレ八王子で行われる新たな芸者紹介イベントについてのご案内をいただき、八王子に来る外国人、特に中国系の観光客をターゲットにした芸者体験イベントのパンフレットの製作に協力した。(外国語学部宮首弘子教授協力)

#### ■ ねらい

東京オリンピックの開催時に都心から足を伸ばしてリラックスできる風光明媚な場所を開発・情報提示していくこと。また、外国人留学生と日本人学生がコラボすることにより、魅力的な御岳山の提示をしていくこと。

#### ■ 成果

2 回にわたる御岳山モニターツアーや八王子芸者紹介のプロジェクトを通じて、地域課題の解決に向けて寄与することができた。また、学生に日本の古く伝統的な文化を実体験として伝えるとともに、これを楽しみたいと考える外国人のニーズを発掘する手伝いを海外留学生等の協力を得ながら実現できた。



御岳山モニターツアーの様子

外国語学部 古本泰之ゼミナール

### 各種情報交換・共同研究を推進した地域貢献活動と交流活動

指導教員名 古本 泰之 学生代表者 倉茂 ほのか (外国語学部)

#### ■ 概要

井の頭キャンパスの設置に伴い、(株)アトレとの包括協定に基づいた活動、東京都西部公園事務所とのイベントを通じた連携活動、新川宿まちづくり協議会との連携によるイベント実施等、本ゼミにおいて多様な地域交流活動・社会貢献活動が実施されている。

平成 29 年度は、10 月に井の頭キャンパス周辺の企業・商店街などで開催される「井の頭 100 祭イベント」と、10・11 月には「新川宿まちづくり協議会・朝市等イベント」に協力した。また、「アトレでの共同イベント」では、小学生に対する職業体験「はじめてのおみせやさん」の実施や飲食店メニューの開発などを実施した。

#### ■ ねらい

三鷹市の地域活性化に貢献すること。学生にとっては、地域振興に関する具体的な学びを深めること。

#### ■ 成果

これらの活動は昨年度より継続されている事業であり、三鷹市の地域活性化に貢献することができた。学生にとっては、地域振興に関する具体的な学びを深めることができた。



「はじめてのおみせやさん」の様子

保健学部 地域看護学研究室

## 災害復興期における地域再建支援活動

指導教員名 大木 幸子 学生代表者 垂見 ゆり (保健学部)

### ■ 概要

平成29年8月8日(火)から10日(木)の3日間、災害復興期における地域看護活動を学ぶため、気仙沼市内の視察や資料展示の見学、住民との交流、産業の再建に向けた取り組みの聞き取りなどを実施した。

これらの活動をとおして、被災の甚大さとその後の復興過程を学習し、集団移転地域でのワークショップを通じて、健康教育(健康体操、熱中症予防の講話)の実施及び新たな地域づくりについてのテーブルトークでの記録・発表を行った。

1日目は、震災当時市内の訪問看護ステーションの所長をされていた遠藤氏から、震災当日の状況を伺った。利用者の中には、介護者とともに津波で亡くなられた方が少なくなかったこと、停電により、多くの在宅療養者が重症の褥瘡を発症された話などを伺った。震災後、訪問看護ステーション内で訪問看護師自身の安全と利用者の避難支援について議論された経過は、看護職に就く予定の学生にとっても身近な問題であった。

2日目は、午前には市内視察として魚市場および市内美術館の震災資料展の見学を行い、午後はNPO法人の実施するサークル活動および訪問活動に参加した。被災住民の生の声を伺いながらも、住民の皆さんの笑顔に出会う体験となった。

3日目は、集団移転地域内に新築されたコミュニティーセンターでの住民とのワークショップを行い、午後には多くの世帯が被災した地域の遺族会会長の被災体験を伺うとともに、農業再建に向けて立ち上げられた大規模農場の見学をさせていただいた。ワークショップでは、皆さんが苦しく悲しい体験をされながらも、地域への愛着と誇りを持って生活を再建されてきたことを学んだ。また、高齢になっても地域の役に立ちたいという言葉が印象的だった。その後、遺族会が建立された慰霊碑の清掃ボランティア活動を行ったあと、現地のNPO法人職員とともに3日間の学びを振り返り、共有した。

### ■ ねらいと成果

この活動は、気仙沼市で震災後活動をしている地元の市民団体と連携し、現地でのフィールドワークをとおした地域貢献と、学生の災害復興期における地域支援活動に関する教育を目的としたものである。特に、地域貢献という点では、これらの活動で捉えた地域ニーズを、地元の支援団体にフィードバックすることで、被災地での今後の地域復興活動に寄与することをねらいとした。

住民との交流やワークショップでは、被災後、避難所、応急仮設住宅、恒久住宅へと移動を重ねてきた中での被災住民の気持ちや被災前からの地域への愛着、これからの地域への期待などを住民の言葉で言語化する機会となった。そうして伺った内容を地元の支援機関であるNPO法人に伝えることで、今後の地域づくりに向けた基礎資料となった。学生は、報道されている被災地の状況と異なる復興の厳しさを実感するとともに、復興住宅や再建住宅

への移転が進む中での新たな地域づくりに向けた課題を被災者の言葉を通して理解することができ、平常時から求められる地域看護活動への理解を深める機会ともなった。



住民の皆さんとの交流の様子



ワークショップの様子



慰霊碑の清掃ボランティア活動の様子



現地NPO法人職員とともに2日間の学びを振り返る

総合政策学部 進邦徹夫ゼミナール

## atre vié 三鷹との地域連携活動

指導教員名 進邦 徹夫 学生代表者 愛甲 量士 (総合政策学部)

### ■ 概要

1. 進邦ゼミナールは、従前から、atre vié 三鷹の情報紙『みたから』への取材に参加させていただいていた。平成 29 年度は、紙面づくりには直接参加しなかったものの、都市農業および地域交流課と atre vie 三鷹とのコラボ企画、「みたからさんぽ」の事前準備取材に関わる機会を得た。

三鷹の都市農業は、周辺の宅地が進む中で厳しい環境にさらされているが、取材の中で学生たちは、まちなかで販路を拡大するなど独自の工夫をしている様子を描き出すことができたという印象を持った。

2. 今年度、おにぎり処「えんむすび」とのコラボレーションによるお弁当企画を進めた。

ゼミ活動の中でお弁当のコンセプトや内容、販売方法、装丁等の検討を進め、「東北復興弁当」や「ヘルシー弁当」などの提案があったが、「えんむすび」の社内での議論を経て、「ヘルシー弁当」の販売に至った。

価格や装丁、販売のキャッチコピーなども学生が中心となって検討され、「杏えんべんと。」と冠した弁当が完成し、平成 30 年 3 月 9 日より販売された (当面 3 月末まで)。売り上げは 1 日平均 20 個とのことで、比較的好評を得ている。また、学生による試食販売も行うことができた。

### ■ ねらいと成果

これらの活動は、atre vié 三鷹との連携により、通常のゼミ活動では得られない企業活動の一端に触れることを通じて、学生の学びに拡がりを持たせることを目的としている。

『みたから』編集への参加では、取材活動を通じて質問内容が学生目線であり、ユニークなものとして評価された。おにぎり処「えんむすび」との連携においては、やはり学生が「お弁当」コンセプト（「ヘルシー弁当」）を提示するなど、学生ならではの視点が生かされていたと思われる。

学生は、『みたから』編集への参加では取材や編集活動を通じて社会人と接する機会も多く、社会人マナーを学ぶ機会を得たほか、交渉力、発信力を身につけることができた。おにぎり処「えんむすび」との連携においては、「お弁当づくり」を通じて、企画力、構成力、プレゼンテーション能力を得ている。また、試食販売の経験で、商品販売の難しさと同時に楽しさを学ぶことができた。アルバイトとは違う「遊び」になったといえる。



「みたから 3 号」の合同打合せ風景



完成した「みたから 3 号」



ヘルシーな「杏えんべんと。」



学生による試食販売

# 地域活性化分野での地域交流活動

地域交流推進室 地域連携企画班

## 三鷹の地域資源を活かした散歩企画の立案・実施（アトレヴィ三鷹との地域連携活動）

指導教員名 井上 晶子 学生代表者 高橋 万葉（外国語学部）

### ■ 概 要

平成 29 年 6 月から 20 数回にわたって、三鷹の地域資源を活かした散歩企画の立案・検討を行い、平成 30 年 3 月 24 日（土）に「みたからさんぽ」を実施した。

企画を立案する段階では、生きがいづくりコーディネーター養成講座履修生、学生、アトレヴィ三鷹の 3 者で三鷹の宝（地域資源）を出し合い、「農」が魅力であるとの共通認識を持つことができた。

その魅力をどう発信するのか検討した結果、農に触れながら散歩を楽しむ「散歩+体験」のスタイルとすることで決定し、実際に市内を何度も歩き、コースを決定した。

また、「体験」については、三鷹市役所や J A 東京むさし三鷹地区青壮年部にも相談し、大正期から残る蔵の見学、江戸東京野菜のらぼう菜の収穫体験、農家さんによる農家ごはんの提供を企画に盛り込むこととなった。

企画の周知にあたっては、アトレヴィ三鷹の情報誌「みたから」に掲載することとなった。企画の概要だけでなく、コースや農家さんを紹介するため、農家さんへの取材も行った。

当日に向けては、コース内でエリア担当を決め、エリア内の歴史や市民だからこそ知っている情報を各自収集・整理を行い、その情報をメンバー全員で共有し、担当エリア外のことについても知識をつけるよう努めた。本番当日は担当エリアでの解説に加え、参加者への声かけ、隊列の管理、記録写真撮影などをメンバーで協力し合いながら行い、滞りなく終えることができた。

### ■ ねらいと成果

三鷹周辺の地域の宝（地域資源）を市民の視点から伝えることで、スポットを見て楽しむだけでなく、長年住んできたからこそ知っているまちの移り変わりを参加者に感じてもらうことができた。また、のらぼう菜の収穫体験を通して、参加者と農家さんとの交流が生まれ、三鷹の「農」を身近に感じてもらう機会となった。

生きがいづくりコーディネーター養成講座履修生と学生が一緒になって企画を検討してきて、生きがいづくりコーディネーター養成講座履修生にとっては学生の若い視点による意見やアイデアから新たな発想が生まれ、学生にとっては生きがいづくりコーディネーター養成講座履修生の豊富な知識と、企画を成功させようという強い気持ちを持って取り組んでいる姿が刺激となり、企画への向き合い方に変化が見られた。



「みたからさんぽ」企画会議の様子



農家さんへの取材の様子



江戸東京野菜のらぼう菜の収穫体験



「風の散歩道」を歩く参加者たち

# その他の分野での地域交流活動

外国語学部

## 秋田県湯沢市・秋の宮温泉郷との連携協定に基づく活動に参加

指導教員名 古本 泰之 井手 拓郎

### ■ 概要

秋田県湯沢市「秋の宮温泉郷イメージアップ推進協議会」と本学外国語学部では、協働で観光まちづくりの活動に取り組んでおり、平成24年には「まちづくり・観光事業に関する連携協定」を締結した。

これらの活動の一環として以下2つの「フィールドスタディ」(外国語学部科目)に取り組んだ。

#### (1) 観光資源調査と現地関係者との意見交換

平成29年8月6日(日)～9日(水)に外国語学部古本泰之准教授と外国語学部生15名が湯沢市秋の宮地域を訪問し、「ジオパーク」の視察や秋田県立雄勝高等学校生徒との協働でのグリーンツーリズム体験、地域イベントの補助、意見交換などを行った。

#### (2) かだる雪まつりへの参加

平成30年2月1日(木)～5日(月)に外国語学部の井手拓郎准教授と外国語学部生14名が、第20回かだる雪まつり(秋田県湯沢市)に参加し、秋の宮地域の方々と一緒に「ミニかまくら」を作るなどのイベントを支援した。

### ■ ねらい

秋の宮温泉郷との連携を推し進め、イベントの運営支援に携わりながら交流を図ることにより、地域と本学の双方が、お互いを高め合う関係を続けていくこと。同時に、現地との交流を通じて、観光による地域振興活動を学ぶこと。

### ■ 成果

秋の宮温泉郷地域にとっては、これまで継続してきた本学との連携事業を通じて地元の価値を再発見再評価する機となっている。

湯沢地域の観光の現状を把握し、関係団体と意見交換会を実施し、着地型旅行商品造成への提言を行うことができた。また、雪

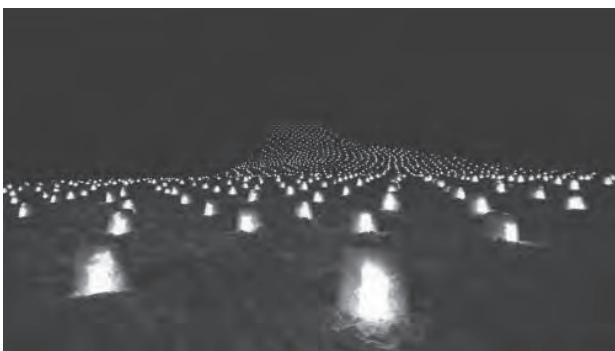
まつりについては、学生参加の事業として10年目の節目を迎え、参加学生のうち5名はリピーターで、さらに本学の卒業生4名も積極的に参加を希望するなど、地域との深い絆が感じられる継続事業となった。活動の様子は、「あきたさきがけ新聞(平成30年2月4日付)」に掲載された。



現地関係者と意見交換



秋の宮地域の見学



秋の宮温泉郷の方々で作ったミニかまくら



第20回かだる雪まつりに参加したメンバー

## その他の主な地域交流活動（一部掲載）

	No.	行 事 名	実 施 期 間	活 動 主 体
健康	1	「がんと共にすこやかに生きる」講演会	平成29年 6月10日(土) 8月5日(土) 9月9日(土) 10月7日(土) 11月25日(土) 平成30年 2月3日(土) 3月10日(土)	医学部・医学部附属病院
	2	三鷹市医師会 平成29年度 三鷹市中高齢者の運動相談事業「メディカルチェックと運動処方」	平成29年 8月7日(月)～ 10日(木)	医学部、保健学部
	3	市民公開講座	平成29年10月21日(土)	医学部
	4	認知症にやさしいまち三鷹 講演会	平成29年11月18日(土)	医学部、医学部附属病院
	5	三鷹市健康長寿講演会	平成30年 2月16日(金)	医学部、医学部附属病院
	6	杏林大学緩和ケア研修会	平成30年 2月17日(土)、 18日(日)	医学部附属病院
	7	糖尿病予防フェスタ 2018春	平成30年 3月24日(土)	医学部附属病院
	8	第40回三鷹いきいきプラス講演会 健康増進講座 高齢者のための運動のポイント～いつまでも健やかでいるために！～	平成30年 3月30日(金)	保健学部
教育	9	羽村市立羽村第1、第2、第3中学校2年生に一次救命処置について講義及び実技の授業	平成29年 6月16日(金)	保健学部
	10	三鷹市東部地区住民協議会「ひまわり学苑」健康講座	平成29年 6月19日(月)	保健学部
	11	杉並区 COPD 予防教室「COPD(慢性閉塞性肺疾患)をご存じですか？」	平成29年 6月27日(火)	保健学部
	12	夏！体験ボランティア2017inみたか	平成29年 8月21日(月)～ 25日(金)	医学部附属病院
	13	第8回 リウマチ膠原病教室	平成29年 9月2日(土)	医学部附属病院
	14	杏林大学連携事業研修会 講演：「発達障害の傾向を持つ児童への対応や保護者との関係づくり」	平成29年 9月12日(火)	保健学部
	15	Ikiなまちかど保健室での健康教育	平成29年 9月25日(月)	保健学部
	16	三鷹市認知症サポーターフォローアップ講座	平成29年12月16日(土)	医学部
	17	野村病院 医療倫理研修	平成30年 3月3日(土)	保健学部
地域活性化	18	第12回 三鷹市民公開講座「腎臓について考えるフォーラム」	平成29年 5月13日(土)	医学部附属病院
	19	吉祥寺ナーシングホーム夏祭り	平成29年 8月4日(金)	保健学部
	20	三鷹国際交流フェスティバル	平成29年 9月24日(日)	外国語学部
	21	健康長寿講演会 杏林大学医学部附属病院と三鷹市老人クラブ連合会との合同行事	平成29年10月12日(木) 平成30年 2月16日(金)	医学部、医学部附属病院
	22	ボッチャ体験授業	平成30年 2月22日(木)	保健学部
	23	平成29年度 いのじんセミナー研修	平成30年 3月10日(土)	保健学部
	24	羽村市青少年問題協議会	平成30年 3月19日(月)	保健学部
その他	25	Mitaka Kichijoji Project	平成29年4月～平成30年3月	総合政策学部
	26	野村病院倫理委員会	平成29年4月～平成30年3月	保健学部
	27	精神に障害がある人の配偶者・パートナーへの支援	平成29年 5月27日(土)～ 平成30年 3月24日(土)	保健学部
	28	ライフ・ワーク・バランス推進のための市民協働講座	平成30年 3月4日(日)	総合政策学部

# 本学と三鷹市・羽村市・八王子市との連携

三鷹市 地域活性に向けた協働事業など

羽村市 連携活動の実行委員会へ参加など

八王子市 選挙啓発活動、駅伝大会での救護など

本学は東京都羽村市と三鷹市において、相互の資源および研究成果等の交流を促進することによる活力ある地域社会の創造や人材育成などを目的として、前者とは平成22年6月に、後者とは平成25年9月に包括的な連携に関する協定を締結した。この包括連携協定は、教育、生涯学習、まちづくり、地域の産業・文化の振興、健康、福祉等の分野において連携し協力していくものである。また、八王子地域は25の大学・短大・高専がある学園都市であり、本学は平成21年4月から大学コンソーシアム八王子に加盟し、生涯学習の推進や情報の発信、学生と市民の交流、外国人留学生の支援などの事業に取り組んでいる。

## 三鷹市

平成29年8月に(株)アトレとの地域貢献パートナーに関する協定を締結し、平成29年度もアトレヴィ三鷹と多くの協働事業をすす

めた。総合政策学部、外国語学部、保健学部の教員・学生が継続的に推進しているプロジェクトは、食・情報・駅などをテーマに5つの活動が展開された。また、市との連携も深まりつつあり、教育委員会を通じたみたか地域未来塾への学習支援員の派遣も継続実施した。



NO.	ボランティア活動名称	実施期間	学部
1	居場所づくりプロジェクト「だんだん・ばあ」	毎月第2・第4水曜	外国語学部
2	健康診断 補助	平成29年4月11日、12日、6月8日、14日	保健学部
3	スクールインターシップ	平成29年4月11日、18日	保健学部
4	東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアール	平成29年4月29日	保健学部
5	三鷹市学生教育ボランティア	平成29年5月より週1回	保健学部
6	井の頭100歳記念ウィーク 実行委員	平成29年5月1日～7日	外国語学部
7	井の頭恩賜公園100周年行事	平成29年5月4日、6日、7日	保健学部、総合政策学部、外国語学部、大学院
8	駅からハイキングプログラム	平成29年5月6日～通年	外国語学部
9	新川宿ふれあい朝市	平成29年5月14日	外国語学部
10	三鷹市新川地域 夜間パトロール	平成29年5月17日	外国語学部
11	平成29年度「地域交流活動支援事業」JR「駅からハイキング」プログラム	平成29年5月19日、29日、6月3日、9日、7月20日、24日、8月2日、9日、9月21日、10月26日、11月2日～6日	外国語学部
12	音楽療法で地域を明るくする学生の会（東京弘済園）	平成29年5月20日以降毎月1回	保健学部、総合政策学部、外国語学部
13	極低出生体重児親の会 ぴあんずボランティア	平成29年5月20日、7月15日、10月28日、平成30年2月20日	保健学部
14	TOKYO まちフェスタ 第46回 東京ブロック大会三鷹大会	平成29年5月28日	保健学部
15	三鷹国際交流フェスティバス実行委員会	平成29年6～9月の任意の日参加	外国語学部
16	はつらつ体操井の頭 介護予防事業 運営補助	平成29年6月2日、16日、23日、30日、7月7日、14日、8月18日、9月1日、8日、12月1日～平成30年2月23日	保健学部
17	多胎育児支援活動	平成29年6月3日、17日、9月26日、10月14日、21日、平成30年2月3日、10日	保健学部



NO.	ボランティア活動名称	実施期間	学部
18	授業補助	平成29年6月29日～3月	保健学部
19	きらめきハッピーキャンプ ワンデイ・レクリエーション	平成29年7月1日	保健学部、外国語学部
20	「椎の実・どんぐり夏まつり」ボランティア	平成29年7月22日	保健学部
21	はなかいどう祭	平成29年7月22日	保健学部
22	三鷹健幸教室	平成29年7月22日、9月30日、11月25日、平成30年1月20日、2月10日	保健学部
23	ふるさと三鷹ふれあい 夏まつり2017	平成29年7月30日	外国語学部
24	三鷹市運動相談事業	平成29年8月7日～10日	保健学部
25	ひがしじどうかんボランティア	平成29年8月17日、18日、19日、20日	保健学部
26	いのちの大切さを子どもたちに —幼児期・学童期の子どもたちへの性教育—（あけぼの保育園）	平成29年8月23日、29日、30日、9月5日、平成30年2月23日、28日、3月1日、2日、12日	保健学部
27	高齢者ともにお花を楽しむ会	平成29年9月23日	保健学部
28	国際交流フェスティバル	平成29年9月24日	外国語学部
29	「みたかまちづくりディスカッション」実行委員会 委員	平成29年10月4日 以降毎月1回	外国語学部
30	井の頭100祭	平成29年10月21日、22日、11月26日	総合政策学部、外国語学部
31	三鷹市総合防災訓練	平成29年10月29日	保健学部
32	「東京弘済園まつり」BLS講習、スタッフボランティア	平成29年11月3日	保健学部
33	アトレヴィ三鷹と華道部の打ち合わせ	平成29年11月7日	保健学部
34	ポッチャ体験会	平成29年11月14日、平成30年2月14日、2月24日	保健学部
35	第26回三鷹市民駅伝大会	平成29年11月26日	保健学部、外国語学部
36	みたかキャンドルナイト2017	平成29年12月2日	外国語学部
37	ボチトレ	平成29年12月9日	保健学部
38	看護師・コメディカルのための第23回FIM講習会	平成29年12月10日	保健学部
39	三鷹市・武蔵野市との合同パトロール	平成29年12月11日	外国語学部
40	花で地域を活性し隊（花と緑と交流でまちづくり）	平成29年12月28日	保健学部、総合政策学部、外国語学部
41	中学生に対するBLS指導	平成30年1月16日、2月7日、3月5日、7日、8日、9日	保健学部
42	井の頭地区 すずらの会 ロコモ予防事業補助	平成30年2月13日	保健学部
43	はじめてのおみせやさんプロジェクト	平成30年2月18日	外国語学部
44	南多摩東京都理学療法士協会北多摩ブロック学術集会	平成30年2月18日	保健学部
45	連雀学園三鷹市立南浦小学校での国際交流について	平成30年2月28日	外国語学部、大学院
46	三鷹市老人クラブモティブシンドローム測定会	平成30年3月2日	保健学部
47	多胎育児支援活動～ツインズマーケット～	平成30年3月4日	保健学部、総合政策学部、外国語学部
48	ツインズマーケットでのこどもいけばな体験	平成30年3月4日	保健学部、総合政策学部
49	みたからハイキング	平成30年3月24日（実施に向けて通年で活動）	外国語学部

## 羽村市

平成 29 年度は 43 件の事業で連携した。第 4 回羽村にぎわい音楽祭実行委員会、青梅・羽村ピースメッセンジャー、学生講座企画など、教育的な地域貢献活動を展開することができた。また、防災における「共助」の力を育む羽村市立中学生を対象とした BLS（一時救命措置）の指導も継続して実施した。



NO.	ボランティア活動名称	実施期間	学部
1	「羽村にぎわい音楽祭 2017」実行委員	通年	外国語学部
2	スポーツ機会の提供プログラム	平成 29 年 5 月 21 日、6 月 17 日、8 月 26 日、平成 30 年 2 月 17 日	保健学部
3	杏林大学学生連携企画講座実行委員	平成 29 年 5 月 25 日～企画実施まで	外国語学部
4	第 6 回羽村市環境フェスティバル	平成 29 年 6 月 3 日	総合政策学部、外国語学部
5	第 42 回はむら夏まつり	平成 29 年 7 月 29 日	総合政策学部、外国語学部、保健学部
6	第 20 回地域教育シンポジウム実行委員会	平成 29 年 9 月 1 日、10 月 3 日、以降月 1 回程度の打ち合わせあり	外国語学部
7	スポーツ機会の提供プログラム 歩こう会	平成 29 年 10 月 14 日	保健学部
8	選挙啓発のための模擬投票（第 48 回羽村市産業祭）	平成 29 年 11 月 4・5 日	総合政策学部
9	羽村にぎわい音楽祭 2017	平成 29 年 11 月 26 日	外国語学部
10	たまら・び	平成 29 年 11 月 27 日、12 月 8 日	外国語学部
11	中央児童館ウィンターフェスティバル（羽村市）	平成 29 年 12 月 17 日	保健学部
12	第 20 回地域教育シンポジウム	平成 30 年 1 月 20 日	総合政策学部

## 八王子市

平成 29 年度は継続して JR 東日本八王子支社と連携し、諸外国人の多摩エリアへの誘客を目指して新しいサービスの開発に取り組んだ。大学コンソーシアム八王子の事業には継続的に参画し、全関東八王子夢街道駅伝競走や平岡町での健幸教室と体力測定会など、多くの活動にボランティアとして学生や教員が参加して、地域と大学間の連携を推進することができた。



NO.	ボランティア活動名称	実施期間	学部
1	健康診断 補助	平成 29 年 4 月 11 日	保健学部
2	選挙啓発のための模擬投票	平成 29 年 5 月 14 日	総合政策学部
3	八王子市学生天国におけるエイズピア活動	平成 29 年 5 月 14 日	総合政策学部、大学院
4	学生天国（マジック）	平成 29 年 5 月 14 日	保健学部、総合政策学部、外国語学部
5	おんがたハートフルデー夏祭り 2017	平成 29 年 8 月 26 日	保健学部
6	大学コンソーシアム八王子留学生 WG 留学生座談会について	平成 29 年 11 月 29 日	外国語学部
7	いのちの大切さを子どもに～幼児期・学童期の子どもたちへの性教育～	平成 29 年 12 月 9 日	保健学部
8	平岡町健幸教室体力測定会	平成 30 年 1 月 13 日	保健学部
9	第 68 回全関東八王子夢街道駅伝競走大会	平成 30 年 2 月 11 日	保健学部
10	平成 29 年度南多摩医療と地域と介護をつなぐ会 第 13 回フォーラム	平成 30 年 2 月 18 日	保健学部
11	JR 東日本八王子支社との協働事業「YOKOSO NIPPON Project」報告会	平成 30 年 3 月 8 日	総合政策学部、外国語学部

# メディア紹介

■平成 29 年 10 月 12 日

J : COM 武蔵野・三鷹放映

公開シンポジウム

「感染症対策と私たちの暮らし」



■平成 29 年 12 月 20 日

J : COM 武蔵野・三鷹放映

「中高生も学ぼう！おもてなしボランティア@杏林大学」





---

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」平成 25 年度採択  
新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合知の拠点

**平成 29 年度 地（知）の拠点整備事業 成果報告書  
地域交流活動報告書**

---

発行日 平成 30 年 8 月

編集発行 杏林大学 地域交流推進室

〒181-8612 東京都三鷹市下連雀 5-4-1

TEL : 0422-47-8052 FAX : 0422-47-8054

<http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/society/area2/>

---